

は じ め に

この冊子には、平成30年度のAセメスターに教養学部前期課程の1・2年生に対して開講される講義内容の概要（『科目紹介』）と、学年・科類・専門学部ごとの時間割（『時間割表』）が記載されています。

『科目紹介』では、時間割ごとに講義に関する情報を記載していますが、より詳しい情報は、UTAS (<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>) のシラバスで公開していますので、履修を検討している講義については必ず参照してください。それぞれの講義内容をよく比較して、各自履修計画を立ててください。なお、こちらは『履修の手引き』のI-4に掲載されている、(表2)「前期課程で各科類の学生が取得すべき必要最低単位数」の順に記されています。

『時間割表』は、「科類別時間割表」「総合科目等時間割表」「専門科目時間割表」に分かれています。受講するクラスが指定されている科目は、科類ごとに「科類別時間割表」に、受講するクラスが指定されていない総合科目、主題科目及び展開科目は、「総合科目等時間割表」に、各種情報が記載されています。

入学時に配付された『履修の手引き』を参照して、前期課程の修了要件を満たすためにはどの科目群からどの程度の単位の履修が必要か、進学志望の学部・学科等の要望科目・要求科目はどうなっているか、将来進むべき専門分野の基礎知識を十分につけ、あわせて幅広く深い教養を身につけるためにはどのような組み合わせで講義を履修するのがよいかなどを十分に考えて、バランスよく履修計画を立ててください。

【重要】平成26年度以前の入学者へ

平成27年度以降の入学者を対象に、教養学部前期課程の新しいカリキュラムが始まりました。本冊子に記載されている各科目の情報は、新しいカリキュラムの情報に基づいています。一方で、平成26年度以前に入学した皆さんには、入学時に配付された『履修の手引き』に記載されているカリキュラム（以下、旧カリキュラムという。）が適用されます。そのため、本冊子を利用するにあたっては、新しいカリキュラムと旧カリキュラムとの基本的な違いや、各科目の対応関係を理解しておくことが重要です。例えば、旧カリキュラムで開講されていた科目の一部は新しいカリキュラムは開講されません。その場合、新しいカリキュラムの対応する科目を履修することで、旧カリキュラムの該当科目を履修したとみなす、「科目の読み替え」を原則として行います。

こうした情報の詳細は、すでに配付した『平成26年度以前の入学者のための履修の手引き（補遺）』に記載していますので、必ずこれを熟読した上で、履修計画を立ててください。

教室の変更について

講義を受講する学生が、教室の収容人数を大幅に超え、多数の学生が椅子に座ることのできないケースが、近年目立ってきています。この問題を解決するために、教員からの教室変更の要望があり次第、随時教室の変更を行っています。

したがって、授業期間開始から履修科目確認・訂正期間終了時までは、特に掲示・UTASを確認して、教室変更の情報に十分注意してください。

また、履修科目確認・訂正期間以降についても、空調の故障等の原因により、急遽教室変更が生じることがありますので、教室変更の情報は随時確認するようにしてください。

目 次

1. 科目紹介

基礎科目

外国語	4
身体運動・健康科学実習	22
社会科学	24
人文科学	27
基礎実験	30
数理科学	32
物質科学	37
生命科学	41

展開科目

社会科学ゼミナール	42
人文科学ゼミナール	44
自然科学ゼミナール	48

総合科目

総合科目L 言語・コミュニケーション	54
総合科目A 思想・芸術	140
総合科目B 国際・地域	144
総合科目C 社会・制度	151
総合科目D 人間・環境	155
総合科目E 物質・生命	171
総合科目F 数理・情報	180

主題科目

学術フロンティア講義	186
全学自由研究ゼミナール	193
全学体験ゼミナール	226
国際研修	253

PEAK科目	258
--------	-----

2. 時間割表

科類別時間割表

1年文科一・二類	269
1年文科三類	272
1年理科一類	275
1年理科二・三類	278

総合科目等時間割表	281
-----------	-----

専門科目一覧表	300
---------	-----

教職科目一覧表	333
---------	-----

専門科目時間割表	334
----------	-----

3. 教室配置図・地図	366
-------------	-----

Aセメスター（A1・A2ターム）科目紹介

p.3より、Aセメスター（A1・A2ターム）に開講される科目の科目紹介（シラバス）が掲載されていますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。シラバスは本冊子以外にも、UTASにログインの上、画面上「シラバス」メニューから「(シラバス参照)」を選択することでも参照ができます。UTAS上のシラバスは本冊子の科目紹介よりも多くの情報が掲載されていますので、履修を考えている授業については、UTAS上のシラバスも併せて参照するようにしてください。具体的には、「授業計画」「学習上のアドバイス」などの項目は、UTAS上のシラバスのみに掲載されています。

科目紹介（シラバス）例（科目ごとに掲載されている項目・情報は異なります）

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	単位	教室	対象
①	②	東大概論	駒場 太郎	③	④	⑤	⑥	⑦
講義題目 目標概要 評価方法 ⑧ 教科書 ガイダンス								

①時間割コード

それぞれの授業に割り振られている固有の番号です。UTASでシラバスを参照する際などに使用します。

②開講区分

授業が開講される期間を示します。それぞれの表示は以下の期間での開講を表します。

開講区分	正式名称	授業の開講期間
A	Aセメスター	概ね9～1月
A1	A1ターム	概ね9～11月
A2	A2ターム	概ね11～1月

授業日の詳細については、表紙裏の授業等日程を参照してください。

③所属

教養学部（総合文化研究科）が開講する授業は、開講元の部会名又は学科（専攻）が掲載されています。

他学部・研究科等が開講する授業は、当該学部・研究科等の名前が掲載されています。

④曜限

授業が行われる曜限が掲載されています。「集中講義」と記載されている授業は、特定の日程や授業期間外に行われることがありますので、授業内容を確認してください。

⑤単位

当該授業に合格した場合に得られる単位数が掲載されています。当項目の掲載がない科目については、『履修の手引き』p.6に掲載されている内容に従います。

⑥教室

授業が行われる教室が掲載されています。表記と対応する号館・建物は以下のとおりです。

教室名称	建物名称
101～192	1号館
511～534	5号館
721～762	7号館
900	講堂
10-101～10-308	10号館
1101～1109	11号館
1211～1233	12号館
1311～1341	13号館

教室名称	建物名称
KALS	17号館2階
E21～E49	情報教育棟
K101～K502（下2桁目が0）	21KOMCEE West
K011～K214（下2桁目が1）	21KOMCEE East
学際交流ホール	アドミニストレーション棟3階
18号館ホール	18号館1階
音楽実習室	コミュニケーションプラザ北館

駒場キャンパスの建物配置図についてはp.366を参照してください。教室欄に「シラバス参照」と記載されている授業は、上表以外の教室や駒場キャンパス以外の場所で開講される授業のため、正しい開講場所をシラバスやガイダンス等で確認してください。

また、初回のみ通常と異なる教室で行われる授業や、授業開始後に教室変更が行われる授業がありますので、シラバスや掲示板・教養学部前期課程HPのお知らせを随時確認し、実際に授業が行われる教室を正確に把握するようにしてください。

⑦対象

授業の対象となる科類やクラスが掲載されています。欄内の数字は組番号を表し、複数クラスが対象の場合は「6, 16-18, 20」のように範囲を示しています（この場合は17組も対象クラスに含みます）。「奇数」「偶数」と記載のある場合には、学生証番号末尾の数字の奇数・偶数で対象学生を示しています。本項目で指定されていない科類・クラス等に所属している学生は当該授業の履修登録を行うことができないので、注意してください。

⑧科目紹介の内容

具体的な科目紹介の内容が掲載されています。授業によっては、履修にあたっての注意点等が挿入されていることがあります。不明な点は教務課に必ず確認の上、履修登録を行うようにしてください。

英語の履修について

既修外国語の英語は各科目1単位または2単位で、計5単位の科目群であり、英語一列（教養英語）・英語二列S（アカデミック・ディスカッション）・英語二列W（アカデミック・ライティング）に分けられる（その他に総合科目L系列3単位）。

英語一列（教養英語）は共通教科書とこれに関連する音声教材を使用する習熟度別の授業である。英語二列Sも同じく習熟度別の授業であり、文科生、理科生ともFLOW（Fluency-Oriented Workshop）のプログラムにより実施する。英語二列Wは、文科生はALESA（Active Learning of English for Students of the Arts）、理科生はALESS（Active Learning of English for Science Students）のプログラムにより実施する。

- 本冊子においては、4ページから「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」のシラバスが掲載されている。
- 「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」は所属クラスに応じてあらかじめ指定された授業を履修する。「英語一列」「英語二列S」は習熟度別にクラスが分けられている。
- 「英語一列」「英語二列S」「英語二列W」の3科目をそれぞれどのターム・セメスターに履修するかについては、所属クラスにより異なり、下表の4つのグループにあらかじめ分けられる。「(クラス指定総合科目L)」と記載されている部分については、総合科目L系列「英語中級」が所属クラスに対するクラス指定の授業として開講される。

所属クラス	ターム・セメスター			
	1S1	1S2	1A1	1A2
	1S		1A	
文一二 (1-3, 5, 7, 11-12, 14, 16, 18, 24, 26) 文三 (1-3, 10, 14-15) 理一 (1-5, 14, 23, 25, 34-35) 理二三 (1-4, 9-10, 15, 17)	英語一列①	英語二列S	(クラス指定総合科目L)	英語一列②
	(クラス指定総合科目L)		英語二列W	
文一二 (4, 6, 13, 17, 25) 文三 (4-5, 9, 18) 理一 (6-8, 15-16, 21-22, 24, 29-33) 理二三 (5-6, 11, 16, 21)	英語一列①	(クラス指定総合科目L)	英語二列S	英語一列②
	英語二列W		(クラス指定総合科目L)	
文一二 (9-10, 15, 19-20, 27) 文三 (6, 11-12, 16, 19) 理一 (9-10, 19-20, 26, 28, 36-37) 理二三 (7, 13, 18, 20, 22)	英語二列S	英語一列①	英語一列②	(クラス指定総合科目L)
	(クラス指定総合科目L)		英語二列W	
文一二 (8, 21-23, 28) 文三 (7-8, 13, 17, 20) 理一 (11-13, 17-18, 27, 38-39) 理二三 (8, 12, 14, 19, 23-24)	(クラス指定総合科目L)	英語一列①	英語一列②	英語二列S
	英語二列W		(クラス指定総合科目L)	

外国語 (英語一列・特別クラス・特修クラス)

英語一列 (教養英語)・特別クラス・特修クラス

《英語一列② (教養英語)》

目標・概要 「教養英語」は、本学教養学部の英語部会教員が教養課程における英語学習のために作成した、理科生、文科生を問わず学生の知的関心に応える高度で分野横断的な内容をもつ教科書『教養英語読本』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業である。リスニング教材 (音声) およびスクリプトは下記「関連ホームページ」で配信する。クラスは、学生の習熟度に合わせて三段階に分かれており、それぞれのグループの学生にもっとも適した進度や授業方法を採用する。その際、全クラスで共通して学習する部分を一定量設けて試験範囲とし、これに実力問題を加えた統一定期試験を実施する。

授業の方法 ・「教養英語」が行われる時間帯には、それぞれ複数のクラスが設けられている。各クラスの教室割当は教務課掲示板に掲示する (他の語学クラスとは違うので注意すること)。
・「教養英語」では、習熟度に応じて三つのグループを設定している。

グループ1：約300名。授業は英語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの内容理解に加え、作文・ディスカッションなど応用的な活動も含まれる。

グループ2：約900名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分以外のテキストの範囲もカバーし、テキストの正確な読解に加え、作文・ディスカッションなど各教員の個性を生かした応用的な活動も含まれる。

グループ3：約1800名。授業は原則として日本語で行われる。指定された共通部分をカバーし、語彙・文法等を重視しながら読解力の養成を目指す。それを元にした発展的な活動を含むこともある。

・具体的な授業スケジュール (教材の選択、利用方法、必要な準備など) は、授業開始後に各クラスで教員から伝達される。

成績評価方法 定期試験 (統一試験) および平常点

教科書 次の教科書を使用する。

書名 : 教養英語読本Ⅱ

著者 (訳者) : 東京大学教養学部英語部会 (編)

出版社 : 東京大学出版会

関連ホームページ <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/efas/>

《英語特別クラス》

非英語圏からの留学生、及び入試の外国語を英語以外で受験した者で、かつ英語の履修を希望する者は、英語部会の許可を得て「英語特別クラス」の履修で「英語一列②」「英語二列」「総合科目L系列 英語中級」の単位に充当することができる。履修希望者は第一週のガイダンス (日時、場所は掲示を参照) に出席すること。

《英語特修クラス (第3学期終了時点で平均合格していない進学内定者《平均点が40点以上50点未満》対象)》 ※2014年度以前入学者対象

すでに学んだ英語科目の授業内容を復習し、不足部分を補いつつ、英語の運用能力を高めることを目指す。詳しくはUTAS上のシラバス及び教養学部前期課程HPの教務課のお知らせを参照のこと。

授業科目名	担当教員	教室	開講	曜限	対象クラス
英語一列②	教養英語担当教員	各教室	A1	火3	1年文一二 (27-28) 文三 (19-20) 理一 (9-13) 理二三 (7-8)
				火4	1年文一二 (15) 文三 (6-8) 理一 (36-39) 理二三 (20, 22-24)
				水2	1年文一二 (8-10) 文三 (16-17) 理一 (17-20) 理二三 (12-14)
				水3	1年文一二 (19-23) 文三 (11-13) 理一 (26-28) 理二三 (18-19)
			A2	火3	1年文一二 (24-26) 文三 (18) 理一 (1-8) 理二三 (1-6)
				火4	1年文一二 (11-14) 文三 (1-5) 理一 (29-35) 理二三 (21)
				水2	1年文一二 (1-7) 文三 (14-15) 理一 (14-16, 22) 理二三 (9-11)
				水3	1年文一二 (16-18) 文三 (9-10) 理一 (21, 23-25) 理二三 (15-17)
英語特修	HONES SHEILA ANNE	シラバス参照	A	集中	2014年度以前入学の2年生

外国語（英語二列S）

Fluency-Oriented Workshop (FLOW)					
授業の目標・概要 The course aims to build students' confidence and ability to engage fluently and critically in a classroom discussion, to be aware of their weaknesses, and to have the tools to improve autonomously.					
成績評価方法 Grades are based on active participation in class activities and on related assignments.					
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること					
時間割コード	開講	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50381	A 1	火3	BROOKS Britton	149	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50379	A 1	火3	BUENO Alex Falcon	118	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50380	A 1	火3	CAREY Anne Marie	119	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50388	A 1	火3	SEDDON Ryan John	153	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50384	A 1	火3	SHOKOUHI Marjan	116	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50377	A 1	火3	WEITEMIER Adam	117	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50387	A 1	火3	ウー ジン	152	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50390	A 1	火3	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50376	A 1	火3	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50383	A 1	火3	ナオミ バーマン	K501	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50389	A 1	火3	ネルソン シャリティー	E38	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50378	A 1	火3	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50385	A 1	火3	ホールマン フランシス キャンドラー	10-202	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50386	A 1	火3	モレノ ペナランダ ラケル	534	1年 文一二(25)文三(18)理一(6-8)理二三(5-6)
50466	A 1	火4	BUENO Alex Falcon	118	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50459	A 1	火4	CAREY Anne Marie	119	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50452	A 1	火4	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50451	A 1	火4	LEE Albert	K402	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
51539	A 1	火4	SHOKOUHI Marjan	116	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50460	A 1	火4	WEITEMIER Adam	117	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50463	A 1	火4	ウー ジン	152	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50454	A 1	火4	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50457	A 1	火4	ジェームズ エリンガー	K303	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50464	A 1	火4	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50465	A 1	火4	ナオミ バーマン	K501	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50455	A 1	火4	ホールマン フランシス キャンドラー	10-202	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50462	A 1	火4	マニナン ジョン	515	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50456	A 1	火4	モレノ ペナランダ ラケル	534	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50461	A 1	火4	木村 大輔	K401	1年 文一二(13)文三(4-5)理一(29-33)理二三(21)
50595	A 1	水2	BROOKS Britton	119	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50596	A 1	水2	BUENO Alex Falcon	114	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50597	A 1	水2	Kartika Diana	K303	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)

時間割コード	開講	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50583	A 1	水2	LEE Albert	K402	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50585	A 1	水2	ROBB Nigel	K301	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50587	A 1	水2	SEDDON Ryan John	118	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50590	A 1	水2	WEITEMIER Adam	116	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50588	A 1	水2	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50592	A 1	水2	ディーエル グレゴリー ロジャース	534	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50584	A 1	水2	ナオミ バーマン	K401	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50589	A 1	水2	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50594	A 1	水2	ホールマン フランシス キャンドラー	517	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50586	A 1	水2	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50591	A 1	水2	沈 尚玉	10-202	1年 文一二(4,6)理一(15-16,22)理二三(11)
50668	A 1	水3	BROOKS Britton	119	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50675	A 1	水3	BUENO Alex Falcon	114	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50676	A 1	水3	Kartika Diana	K303	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50674	A 1	水3	ROBB Nigel	K301	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50678	A 1	水3	WEITEMIER Adam	116	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50671	A 1	水3	シンドレイエーバ ガリーナ	515	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50670	A 1	水3	ジェームズ エリンガー	K402	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50666	A 1	水3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-102	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50667	A 1	水3	ナオミ バーマン	K401	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50677	A 1	水3	ネルソン シャリティー	E25	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50673	A 1	水3	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50665	A 1	水3	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
50672	A 1	水3	沈 尚玉	10-202	1年 文一二(17)文三(9)理一(21,24)理二三(16)
60048	A 2	火3	BROOKS Britton	149	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60049	A 2	火3	BUENO Alex Falcon	118	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60050	A 2	火3	CAREY Anne Marie	119	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60052	A 2	火3	SEDDON Ryan John	153	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60043	A 2	火3	SHOKOUHI Marjan	116	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60044	A 2	火3	WEITEMIER Adam	117	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60047	A 2	火3	ウー ジン	152	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60046	A 2	火3	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60045	A 2	火3	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60051	A 2	火3	ナオミ バーマン	K501	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60055	A 2	火3	ネルソン シャリティー	E38	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60057	A 2	火3	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60054	A 2	火3	ホールマン フランシス キャンドラー	10-202	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)
60056	A 2	火3	モレノ ペナランダ ラケル	534	1年 文一二(28)文三(20)理一(11-13)理二三(8)

時間割コード	開講	曜限	担当教員	教室	対象クラス
60107	A 2	火4	BUENO Alex Falcon	118	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60106	A 2	火4	CAREY Anne Marie	119	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60105	A 2	火4	DOYLE Aaron	516	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60101	A 2	火4	LEE Albert	K402	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60264	A 2	火4	SHOKOUHI Marjan	116	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60110	A 2	火4	WEITEMIER Adam	117	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60094	A 2	火4	ウー ジン	152	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60097	A 2	火4	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60104	A 2	火4	ジェームズ エリンガー	K303	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60096	A 2	火4	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60109	A 2	火4	ナオミ パーマン	K501	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60102	A 2	火4	ホールマン フランシス キャンドラー	10-202	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60100	A 2	火4	マニナン ジョン	515	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60099	A 2	火4	モレノ ペナランダ ラケル	534	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60103	A 2	火4	木村 大輔	K401	1年 文三(7-8)理一(38-39)理二三(23-24)
60131	A 2	水2	BROOKS Britton	119	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60144	A 2	水2	BUENO Alex Falcon	114	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60133	A 2	水2	Kartika Diana	K303	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60142	A 2	水2	LEE Albert	K402	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60141	A 2	水2	ROBB Nigel	K301	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60139	A 2	水2	SEDDON Ryan John	118	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60136	A 2	水2	WEITEMIER Adam	116	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60137	A 2	水2	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60132	A 2	水2	ディーエル グレゴリー ロジャース	534	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60129	A 2	水2	ナオミ パーマン	K401	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60130	A 2	水2	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60134	A 2	水2	ホールマン フランシス キャンドラー	517	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60135	A 2	水2	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60138	A 2	水2	沈 尚玉	10-202	1年 文一二(8)文三(17)理一(17-18)理二三(12,14)
60182	A 2	水3	BROOKS Britton	119	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60183	A 2	水3	BUENO Alex Falcon	114	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60186	A 2	水3	Kartika Diana	K303	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60189	A 2	水3	ROBB Nigel	K301	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60179	A 2	水3	WEITEMIER Adam	116	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60178	A 2	水3	シンドレイエーバ ガリーナ	515	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60185	A 2	水3	ジェームズ エリンガー	K402	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60184	A 2	水3	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-102	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60190	A 2	水3	ナオミ パーマン	K401	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)

時間割コード	開講	曜限	担当教員	教室	対象クラス
60188	A 2	水3	ネルソン シャリティー	E25	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60187	A 2	水3	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60180	A 2	水3	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)
60191	A 2	水3	沈 尚玉	10-202	1年 文一二(21-23)文三(13)理一(27)理二三(19)

外国語 (英語二列W)

Active Learning of English for Students of the Arts (ALESA)		開講区分	A
目標・概要	<p>This course introduces students to the skill of building an effective written argument in English supported by sources and evidence and to the conventions of formal writing. By the end of the course, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> - be able to present a clear position which is supported by evidence and addresses alternative points of view; - understand the organisation and rhetorical features of an argumentative essay; - be familiar with basic stylistic conventions of academic writing. 		
授業の方法	<p>Class activities will include reading and analyzing argumentative writing in English; developing a position on a issue on the basis of individual research; engaging in a variety of pre-writing exercises; drafting and revising an essay; and using peer feedback to improve students' own and others' work in discussion and written comments.</p> <p>The class is taught in English, and students are encouraged to speak English in class. Graduate-student teaching assistants are available in the Komaba Writers' Studio to help students with their research, writing, and discussion.</p>		
成績評価方法	Grades are based on writing assignments, discussion, and participation in class activities.		
関連ホームページ	http://ale.c.u-tokyo.ac.jp/		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること			

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50044	月2	BUENO Alex Falcon	117	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50046	月2	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50039	月2	Kartika Diana	K301	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50043	月2	SHOKOUHI Marjan	116	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50040	月2	ディーエル グレゴリー ロジャース	534	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50041	月2	ナオミ バーマン	K303	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50045	月2	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50042	月2	ホールマン フランシス キャンドラー	515	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50037	月2	片山 晶子	E25	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50038	月2	沈 尚玉	10-102	1年 文一二(1-3,26-27)文三(1-3,12,19)
50257	火1	DOYLE Aaron	516	1年 文三(14-15)
50258	火1	Kartika Diana	K301	1年 文三(14-15)
50259	火1	ディーエル グレゴリー ロジャース	10-102	1年 文三(14-15)
50361	火3	ディーエル グレゴリー ロジャース	E41	1年 文一二(7)
50362	火3	ユウ ジョアン	114	1年 文一二(7)
51538	火4	BROOKS Britton	149	1年 文一二(10,20)
50441	火4	Kartika Diana	K301	1年 文一二(10,20)
50440	火4	ネルソン シャリティー	E38	1年 文一二(10,20)
50442	火4	ハンセン キャサリン	K302	1年 文一二(10,20)
50438	火4	ユウ ジョアン	114	1年 文一二(10,20)
50819	木2	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(5,9)
50820	木2	ハンセン キャサリン	10-202	1年 文一二(5,9)
50821	木2	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(5,9)
50901	木3	BROOKS Britton	K401	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50894	木3	BUENO Alex Falcon	117	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50896	木3	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50893	木3	Kartika Diana	K301	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50899	木3	SHOKOUHI Marjan	K302	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50897	木3	ネルソン シャリティー	E25	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50895	木3	ハンセン キャサリン	10-202	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50902	木3	ユウ ジョアン	115	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50898	木3	笹山 尚子	E35	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50900	木3	沈 尚玉	10-102	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
50903	木3	野沢 恵美子	116	1年 文一二(18-19,24)文三(6,16)
51035	金1	BROOKS Britton	119	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51030	金1	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51037	金1	SHOKOUHI Marjan	114	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51032	金1	ディーエル グレゴリー ロジャース	534	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51036	金1	ネルソン シャリティー	E25	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51033	金1	ホールマン フランシス キャンドラー	515	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51038	金1	片山 晶子	E35	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51029	金1	沈 尚玉	10-202	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51031	金1	野沢 恵美子	116	1年 文一二(11-12,14)文三(10)
51120	金3	BROOKS Britton	119	1年 文一二(15-16)文三(11)
51116	金3	DOYLE Aaron	516	1年 文一二(15-16)文三(11)
51119	金3	SHOKOUHI Marjan	114	1年 文一二(15-16)文三(11)
51115	金3	ディーエル グレゴリー ロジャース	534	1年 文一二(15-16)文三(11)
51117	金3	ネルソン シャリティー	E25	1年 文一二(15-16)文三(11)
51118	金3	沈 尚玉	515	1年 文一二(15-16)文三(11)

外国語（英語二列W）

Active Learning of English for Science Students (ALESS)	開講区分	A
授業の目標・概要 In this course, students learn about formal scientific writing and style in English; the organization, language, and rhetoric of scientific papers; and the process of writing and preparing formal papers through peer review and revision. 成績評価方法 Grades are based on writing a research paper, giving a presentation, weekly written assignments, and on participation in class activities. ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASを参照すること		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50069	月2	SEDDON Ryan John	118	1年 理一(1-4,35-36)
50067	月2	ウー ジン	K401	1年 理一(1-4,35-36)
50064	月2	シンドレイエーバ ガリーナ	517	1年 理一(1-4,35-36)
50065	月2	タヴァレス ヴァスケス ジェーゴ	KALS	1年 理一(1-4,35-36)
50062	月2	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 理一(1-4,35-36)
50066	月2	マニナン ジョン	K201	1年 理一(1-4,35-36)
50063	月2	モレノ ペナランダ ラケル	10-202	1年 理一(1-4,35-36)
50068	月2	木村 大輔	K501	1年 理一(1-4,35-36)
50119	月3	CAREY Anne Marie	516	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50109	月3	LEE Albert	518	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50108	月3	ROBB Nigel	10-202	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50120	月3	SEDDON Ryan John	118	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50118	月3	WEITEMIER Adam	115	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50110	月3	ウー ジン	K401	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50111	月3	シンドレイエーバ ガリーナ	K301	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50117	月3	ジェームズ エリンガー	K302	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50114	月3	テラシマ アレクサンドラ	120	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50115	月3	ナオミ バーマン	KALS	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50112	月3	マニナン ジョン	K201	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50113	月3	モレノ ペナランダ ラケル	E25	1年 理一(23,25-26,28,34,37)
50183	月4	CAREY Anne Marie	516	1年 理一(19)理二三(13,15)
50182	月4	LEE Albert	518	1年 理一(19)理二三(13,15)
50185	月4	ROBB Nigel	10-102	1年 理一(19)理二三(13,15)
50187	月4	WEITEMIER Adam	115	1年 理一(19)理二三(13,15)
50188	月4	ジェームズ エリンガー	K302	1年 理一(19)理二三(13,15)
50181	月4	マニナン ジョン	K201	1年 理一(19)理二三(13,15)
50184	月4	モレノ ペナランダ ラケル	E25	1年 理一(19)理二三(13,15)
50186	月4	ユウ ジョアン	116	1年 理一(19)理二三(13,15)
50268	火1	LEE Albert	114	1年 理二三(17-18)
50266	火1	ROBB Nigel	10-202	1年 理二三(17-18)
50267	火1	SEDDON Ryan John	118	1年 理二三(17-18)

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50265	火1	ジェームズ エリンガー	K201	1年 理二三(17-18)
50544	水1	CAREY Anne Marie	516	1年 理一(5,9-10)
50545	水1	SEDDON Ryan John	118	1年 理一(5,9-10)
50541	水1	ウー ジン	K401	1年 理一(5,9-10)
50539	水1	ジェームズ エリンガー	K201	1年 理一(5,9-10)
50538	水1	タヴァレス ヴァスケス ジェーゴ	KALS	1年 理一(5,9-10)
50543	水1	ホールマン フランシス キャンドラー	517	1年 理一(5,9-10)
50540	水1	マニナン ジョン	E25	1年 理一(5,9-10)
50849	木2	LEE Albert	517	1年 理一(14,20)理二三(20)
50850	木2	WEITEMIER Adam	116	1年 理一(14,20)理二三(20)
50844	木2	ウー ジン	K401	1年 理一(14,20)理二三(20)
50846	木2	ジェームズ エリンガー	K501	1年 理一(14,20)理二三(20)
50848	木2	タヴァレス ヴァスケス ジェーゴ	KALS	1年 理一(14,20)理二三(20)
50847	木2	マニナン ジョン	K201	1年 理一(14,20)理二三(20)
50843	木2	木村 大輔	K302	1年 理一(14,20)理二三(20)
51148	金3	CAREY Anne Marie	116	1年 理二三(9-10)
51146	金3	ROBB Nigel	10-202	1年 理二三(9-10)
51145	金3	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 理二三(9-10)
51147	金3	モレノ ペナランダ ラケル	K401	1年 理二三(9-10)
51149	金3	木村 大輔	K501	1年 理二三(9-10)
51192	金4	CAREY Anne Marie	116	1年 理二三(1-4,7,22)
51194	金4	ROBB Nigel	10-202	1年 理二三(1-4,7,22)
51195	金4	シンドレイエーバ ガリーナ	518	1年 理二三(1-4,7,22)
51197	金4	テラシマ アレクサンドラ	114	1年 理二三(1-4,7,22)
51193	金4	ナオミ バーマン	K201	1年 理二三(1-4,7,22)
51198	金4	モレノ ペナランダ ラケル	K401	1年 理二三(1-4,7,22)

英語以外の外国語

ドイツ語		開講区分	A
授業の目標・概要	Sセメスターに引き続いて、共通教材『Einblicke』(東京大学教養学部ドイツ語部会編)を用いて、文法と読解を中心に、会話練習を交えながら総合的にドイツ語を学習する。 なお、L系列の科目も積極的に履修することを勧める。		
成績評価方法	平常点および試験によって行う。		
教科書	次の教科書を使用する。		
	書名 : ドイツ語共通教科書『Einblicke』		
	著者(訳者) : 東京大学教養学部ドイツ語部会編		
関連ホームページ	http://deutsch.c.u-tokyo.ac.jp/		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50074	月2	ドイツ語一列②	大石 紀一郎	10-303	1年 理一(30)
50121	月3	ドイツ語一列②	三宅 晶子	106	1年 理一(29)
50171	月4	ドイツ語一列②	高橋 亮介	104	1年 文三(14)
50246	火1	ドイツ語一列②	畠山 寛	102	1年 文一二(1)文三(1) 理一(1)理二三(1)
50367	火3	ドイツ語一列②	足立 信彦	155	1年 文一二(22)
50414	火3	ドイツ語一列②	久保 哲司	1212	1年 理一(31)
50487	火4	ドイツ語一列②	斉藤 渉	1311	1年 理一(27)
50488	火4	ドイツ語一列②	日名 淳裕	1341	1年 理一(28)
50615	水2	ドイツ語一列②	畠山 寛	102	1年 文一二(21)
50633	水2	ドイツ語一列②	田中 純	153	1年 理二三(17)
50703	水3	ドイツ語一列②	竹峰 義和	155	1年 理一(32)
50728	水4	ドイツ語一列②	森 芳樹	154	1年 文三(15)
50729	水4	ドイツ語一列②	稲葉 治朗	149	1年 文三(16)
50826	木2	ドイツ語一列②	長木 誠司	105	1年 文一二(20)
50971	木4	ドイツ語一列②	工藤 達也	112	1年 理二三(18)
50972	木4	ドイツ語一列②	識名 章喜	102	1年 理二三(19)
51191	金4	ドイツ語一列②	石原 あえか	10-308	1年 理一(33)
51201	金4	ドイツ語一列②	一條 麻美子	102	1年 理二三(20)
50706	水3	ドイツ語特修	高橋 亮介	516	2年 文科 理科
50746	水4	ドイツ語特修	田中 純	153	2年 文科 理科

フランス語		開講区分	A
授業の目標・概要	<p>文芸生クラス、理芸生クラスとも、一列・二列を通じて文法および講読の基礎を固める。 文芸生は、これに加えて演習を履修し、発音や作文、初歩的な会話の練習、文法や講読の応用練習などを行う。 理芸生には、文芸生の演習に相当するものとして、国際コミュニケーション「フランス語初級(演習)」が自由選択できるので、積極的に参加してほしい。</p>		
成績評価方法	平常点(出席・授業への参加態度および小テストなど)と定期試験で総合的に評価する。		
教科書	授業中に指示をする。		
関連ホームページ	http://langue-fr.c.u-tokyo.ac.jp		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50050	月2	フランス語一列②	飛嶋 隆信	162	1年 文一二(24)
50076	月2	フランス語一列②	大森 晋輔	122	1年 理一(37)
50122	月3	フランス語一列②	泉 美知子	101	1年 理一(38)
50123	月3	フランス語一列②	星埜 守之	157	1年 理一(39)
50166	月4	フランス語一列②	大森 晋輔	122	1年 文一二(23)
50485	火4	フランス語一列②	鈴木 順子	1222	1年 文一二(26)
50730	水4	フランス語一列②	増田 一夫	155	1年 文三(17)
50829	木2	フランス語一列②	原 和之	158	1年 文三(19)
50856	木2	フランス語一列②	三浦 篤	113	1年 理一(35)
50857	木2	フランス語一列②	中野 知律	101	1年 理一(36)
50860	木2	フランス語一列②	中田 健太郎	164	1年 理二三(22)
50905	木3	フランス語一列②	篠原 学	101	1年 文一二(25)
50906	木3	フランス語一列②	郷原 佳以	151	1年 文一二(27)
50907	木3	フランス語一列②	山田 広昭	158	1年 文一二(28)
50908	木3	フランス語一列②	森元 庸介	112	1年 文三(18)
50909	木3	フランス語一列②	坂本 さやか	152	1年 文三(20)
50945	木4	フランス語一列②	ビゼ	10-102	1年 文一二(2)文三(2) 理一(2)理二三(2)
50973	木4	フランス語一列②	篠原 学	101	1年 理二三(23)
51143	金3	フランス語一列②	鈴木 順子	113	1年 理一(34)
51152	金3	フランス語一列②	飛嶋 隆信	162	1年 理二三(21)
51153	金3	フランス語一列②	斎藤 かぐみ	158	1年 理二三(24)
50707	水3	フランス語特修	郷原 佳以	108	2年 文科 理科

中国語		開講区分	A
授業の目標・概要	<p>中国語の要である発音をしっかりと身につけた上で、文法の基礎を一年かけて一通り学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文科生は選択必修科目の演習をあわせて履修し、コミュニケーション能力を養成する。クラス別に開講するので、自分のクラスの演習を履修すること。 ●理科生には、選択科目の「初級演習」を開講しているので、一列で習ったことをもとにコミュニケーション能力を高めることが望ましい。(火2と木5に開講) 		
成績評価方法	期末の筆記試験や小テストの結果など。		
教科書	次の教科書を使用する。		
	書名 : 基礎汉语		
	著者(訳者) : 楊凱榮・吉川雅之・張麗群		
	出版社 : 白帝社		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50163	月4	中国語一列②	白 春花	162	1年 文一二(17)
50169	月4	中国語一列②	河野 直恵	166	1年 文三(11)
50170	月4	中国語一列②	楊 凱榮	158	1年 文三(12)
50261	火1	中国語一列②	山影 統	112	1年 理一(22)
50366	火3	中国語一列②	吉川 雅之	1222	1年 文一二(19)
50486	火4	中国語一列②	伊藤 徳也	524	1年 文三(13)
50553	水1	中国語一列②	波多野 真矢	107	1年 理一(24)
50618	水2	中国語一列②	瀬地山 角	108	1年 文三(10)
50624	水2	中国語一列②	青木 正子	157	1年 理一(26)
50631	水2	中国語一列②	波多野 真矢	107	1年 理二三(15)
50632	水2	中国語一列②	相原 まり子	166	1年 理二三(16)
50823	木2	中国語一列②	岩月 純一	107	1年 文一二(14)
50824	木2	中国語一列②	下出 宣子	122	1年 文一二(15)
50854	木2	中国語一列②	松本 秀士	112	1年 理一(25)
50887	木3	中国語一列②	下出 宣子	122	1年 文一二(16)
50924	木3	中国語一列②	大橋 義武	154	1年 理二三(14)
50946	木4	中国語一列②	毛 興華	158	1年 文一二(3)文三(3) 理一(3)理二三(3)
50950	木4	中国語一列②	渡辺 剛	150	1年 文一二(18)
51047	金1	中国語一列②	小方 伴子	158	1年 理一(19)
51061	金2	中国語一列②	谷垣 真理子	157	1年 理二三(13)
51137	金3	中国語一列②	田原 史起	154	1年 理一(20)
51140	金3	中国語一列②	李 彦銘	112	1年 理一(23)理二三(14-15)(TLP)
51190	金4	中国語一列②	石井 剛	101	1年 理一(21)
50708	水3	中国語特修	小野 秀樹	517	2年 文科 理科

ロシア語		開講区分	A
授業の目標・概要	<p>初修ロシア語の1年目はロシア語の文字からはじめて、ロシア語の基礎文法を修得する。1年を終えるころには簡単なロシア語テキストが自在に読める能力の獲得をめざす。</p> <p>文系・理系を問わず、共通教科書を使用する。</p> <p>S セメスターに学んだ文法の基本を発展させ、さらに新しい文法項目を学ぶとともに、テキストによって読解の基礎をつける。</p>		
成績評価方法	<p>定期試験と平常点。 適宜小テストを行うことがある。</p>		
教科書	<p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : Изучаем русский язык с нуля (ロシア語をはじめよう)</p> <p>著者(訳者) : 西中村浩・朝妻恵理子</p> <p>出版社 : 朝日出版社</p>		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50247	火1	ロシア語一列②	渡邊 日日	105	1年 文一二(4)文三(4) 理一(4-5)理二三(4)(TLP)
50489	火4	ロシア語一列②	西中村 浩	1322	1年 理二三(4)
50830	木2	ロシア語一列②	安岡 治子	155	1年 理一(4)
50831	木2	ロシア語一列②	濱田 華練	106	1年 理一(5)
51109	金3	ロシア語一列②	濱田 華練	106	1年 文一二(4)
51121	金3	ロシア語一列②	安岡 治子	155	1年 文三(4)
50709	水3	ロシア語特修	渡邊 日日	118	2年 文科 理科

※TLP履修者は、対象クラスでTLPと指定されている授業を履修すること。なお、総合科目L系列 英語中級、英語上級の抽選登録にあたり、一度当選した科目は履修登録を削除することができないため、抽選登録を行う際は、それぞれの開講曜限に注意すること。

スペイン語		開講区分	A
授業の目標・概要	<p>スペイン語初修は、共通教科書を用い、1年間かけて、日常使われるスペイン語を理解し、簡単な文章を読んだり書いたり、またスペイン語でコミュニケーションをとるために必要な文法体系全体を学習する。Sセメスターでは、内容を一列(文法)と二列(講読)に分け、Aセメスターでは一列で文法・講読の両方を扱う。文系では、外国人教員が担当するクラス指定の演習を設け、教科書の進度に合わせ、発音、聞き取り、会話練習、文法の応用練習などを行う。また、スペイン語を集中的に勉強したい学生のために、インテンシブクラスを週2回開講する。そのほかに、初級作文や初級会話の科目を開講しており、これらを履修することによりスペイン語の運用能力をさらに高めることができる。</p>		
成績評価方法	各担当教員に任されている。		
教科書	次の教科書を使用する。		
	書名 : スペイン語初級		
	著者(訳者) : 東京大学教養学部スペイン語部会		
	出版社 : 朝日出版社		
※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50078	月2	スペイン語一列②	栗林 ゆき絵	151	1年 理二三(10)
50168	月4	スペイン語一列②	三浦 麻衣子	107	1年 文三(9)
50190	月4	スペイン語一列②	和田 佳浦	121	1年 理二三(12)
50264	火1	スペイン語一列②	藤田 護	108	1年 理二三(9)
50409	火3	スペイン語一列②	深澤 晴奈	K114	1年 文三(7)
50510	火5	スペイン語一列②	深澤 晴奈	K114	1年 理二三(8)
50552	水1	スペイン語一列②	深澤 晴奈	K113	1年 理一(16)
50623	水2	スペイン語一列②	深澤 晴奈	K113	1年 理一(11)
50630	水2	スペイン語一列②	久住 真由	113	1年 理二三(7)
50656	水3	スペイン語一列②	久住 真由	113	1年 文一二(13)
50727	水4	スペイン語一列②	石橋 純	511	1年 文三(8)
50735	水4	スペイン語一列②	渡辺 暁	105	1年 理一(17)
50736	水4	スペイン語一列②	深澤 晴奈	K113	1年 理一(18)
50840	木2	スペイン語一列②	愛場 百合子	157	1年 理一(10)
50851	木2	スペイン語一列②	倉田 量介	108	1年 理一(15)
50886	木3	スペイン語一列②	倉田 量介	108	1年 文一二(11)
50914	木3	スペイン語一列②	若林 大我	106	1年 理一(12)
50915	木3	スペイン語一列②	川上 英	104	1年 理一(14)
50923	木3	スペイン語一列②	中島 聡子	113	1年 理二三(11)
50948	木4	スペイン語一列②	川上 英	104	1年 文一二(12)
50959	木4	スペイン語一列②	若林 大我	106	1年 理一(9)
50960	木4	スペイン語一列②	中島 聡子	113	1年 理一(13)
51028	金1	スペイン語一列②	松浦 芳枝	157	1年 文一二(10)
51111	金3	スペイン語一列②	有田 美保	104	1年 文一二(7)

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
51112	金3	スペイン語一列②	内田 兆史	105	1年 文一ニ(8)
51179	金4	スペイン語一列②	内田 兆史	105	1年 文一ニ(9)
50710	水3	スペイン語特修	川崎 義史	157	2年 文科 理科

韓国朝鮮語	開講区分	A
授業の目標・概要	<p>●1年生初修クラス Sセメスターに引き続き、共通教材『ことばの架け橋』を通じて文法と語彙を学んでいき、教科書を終えた後には、さまざまな教材を用いて一年間に学んだ文法知識の応用練習を行います。これらによってAセメスターの授業では、基礎文法を完全に習得した上で、辞書を引きながら新聞・雑誌記事を読める程度、また基本的な内容ならば自分の考えや意見を正確に表現できる程度の力を身につけることを目指します。 文科生はこのほか総合科目L系列において、韓国人数員が担当する「初級（演習）②」を履修し、基礎知識の応用をはかっていきます。理科生には、文科生の「初級（演習）②」に相当する「初級（演習）」が設けられているので、積極的に参加してください。</p> <p>●特修クラス これまでに学んだ内容の復習によって、韓国朝鮮語の基本的な能力を身に付けることを目指します。詳しくはUTAS上のシラバスを参照してください。</p>	
成績評価方法 定期試験と平常点（出席、小テスト、課題など） 教科書 次の教科書を使用する。 書名 :『ことばの架け橋』（再改訂試用版） 著者（訳者）：生越直樹・曹喜澈・三ツ井崇 関連ホームページ http://phiz.c.u-tokyo.ac.jp/~korea/korea_junior.html ※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること		

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50070	月2	韓国朝鮮語一列②	永原 歩	1212	1年 理一(6)
50359	火3	韓国朝鮮語一列②	生越 直樹	1211	1年 文一二(5)文三(5)
50490	火4	韓国朝鮮語一列②	三ツ井 崇	1321	1年 理二三(5)
50747	水4	韓国朝鮮語特修	生越 直樹	103	2年 文科 理科

イタリア語	開講区分	A
授業の目標・概要	<p>●1年生初修クラス 一列二列では、Sセメスターの終わりまでに、初級文法を一通り習得します。Aセメスターでは、それを応用しながら、比較的平易な現代文を中心としたテキストの読解と、接続法・条件法等の文法知識の整理を行います。テキストとして、東京大学イタリア語教材編集委員会編の文法教科書『イタリア語のスタート Italiano... in partenza!』（白水社）を適宜参照しながら、中級読解教科書『ピアッツァ』（東京大学出版会）を主に使用します。あわせて、ネイティヴスピーカの教員による、文法知識の定着と自然なイタリア語の習得のための演習が必修科目として開講されています。「国際コミュニケーション」として、初級の会話・作文、表現練習・インテンシヴも開講されているので、積極的に受講してください。</p> <p>●既修クラス 総合科目L系列「国際コミュニケーション」科目の中・上級科目を既修者の単位として認定しています。</p> <p>●授業計画 1年生初修 — Aセメスター前半 初級文法まとめ Aセメスター後半 講読中心</p> <p>●学習上のアドバイス 時間割上可能で意欲的な学習者には、総合科目L系列「国際コミュニケーション」で開講される選択科目「初級会話」「初級作文」「中級読解」「初級・中級表現練習」等の受講をあわせてすすめます。授業には積極的に参加し、有効な学習としてください。</p>	
成績評価方法 教科書	<p>平常点とセメスター末の筆記試験</p> <p>次の教科書を使用する。 書名 : 『Italiano... in partenza! イタリア語のスタート 文法と練習』 著者(訳者) : 東京大学イタリア語教材編集委員会編 出版社 : 白水社</p> <p>※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること</p>	

時間割コード	曜限	授 業 科 目 名	担当教員	教 室	対象クラス
50060	月2	イタリア語一列②	村松 真理子	103	1年 文三(6)
50360	火3	イタリア語一列②	池上 俊一	107	1年 文一二(6)
50491	火4	イタリア語一列②	宮坂 真紀	155	1年 理二三(6)
50621	水2	イタリア語一列②	宮坂 真紀	155	1年 理一(8)
50958	木4	イタリア語一列②	山崎 彩	1212	1年 理一(7)
50711	水3	イタリア語特修	村松 真理子	K501	2年 文科 理科

日本語

[注意事項]

- 日本語を、前期課程外国語科目の既修外国語、或は、[既修・既修選択]の初修外国語相当として選択した学生は、基礎科目一列② [必修科目] の授業に初回授業から必ず出席すること。
- 新カリキュラムにおける日本語科目（基礎科目一列、二列C、二列P、総合科目L系列）の履修方法等について、基礎科目一列②の初回授業で説明があるので、必ず出席し説明を受けること。
- 総合科目L系列科目(A1, A2)の登録について、UTASや授業での指示に留意し従うこと。

- 基礎科目 日本語一列② 1年生 既修外国語（初修扱い外国語）
『テーマで考え議論する日本語 後半 -Active Learning in Academic Japanese -』

文理横断的なテーマに関して、文献リサーチ、読解・聴解、資料収集、調査、協働タスク、ディスカッション、プレゼンテーション、要旨・レジメ執筆等、様々な能動的な協働活動を通して、日本語の諸技能の習得・上達を目指しつつ、現象・問題や他者の意見を適切に理解する力、資料を分析しデータや論拠に基づき考え述べる力、自分の意見を構築し伝える力、議論し合う力、能動的学習力を養う。

総合科目L系列においては、相互に相補的な授業活動を行う。日本語科目カリキュラム全体・総合科目カリキュラム全体として、様々な分野・目的での四技能の習得・上達にバランス良く資するための授業を設定し、各々の総合科目L系列授業において、それぞれ特徴をもつ授業活動を行う。各授業の特徴・焦点目標については、UTASの各シラバス参照。

総合科目L系列(一部)において、一列授業で扱うテーマ・内容・活動と連動しつつ、相互に相補的な活動を行う。『基礎科目 日本語一列』で扱うテーマやそのテーマでの読解・聴解・協働タスク・ディスカッション等の活動と連動して、一方で、正確な精読、構文・語彙習得（要約・文作・文章構成等、ライティングを含む）のための活動を行い、一方で、アクティブラーニングの発表・プレゼンテーション・発音演習やレポート執筆・論文執筆等、それぞれに特徴をもつ授業活動を行う。

- 総合科目L系列『日本語上級』A1 ターム
「テーマで考え議論する日本語 2: 精読、構文・語彙習得・ライティング中心」
「論文執筆・アカデミックライティング（準備編）」
「アカデミックプレゼンテーションのための発音」
「文学作品を読む・味わう・まとめる・伝える その3」
- 総合科目L系列『日本語上級』A2 ターム
「テーマで考え議論する日本語 2: レポート執筆・発表プレゼンテーション中心」
「論文執筆・アカデミックライティング（実践編）」
「アカデミックプレゼンテーションのための発音」
「文学作品を読む・味わう・まとめる・伝える その3」

授業の目標・概要

成績評価方法 「成績評価方法」は、科目・授業列により異なるので、UTAS上のそれぞれの科目のページを参照すること。
全般的に、毎回の授業活動(および予習・復習)を重視し、出席、授業活動参加、ディスカッション、クイズ、宿題等の課題、発表、試験、レポート等を総合して評価する。詳細については第一回目の授業で配布するシラバスで説明する。

教科書 各授業のUTASシラバスを参照すること。

※講義の詳細・受講するクラスについては、UTASも参照すること

時間割コード	開講	曜限	授業科目名	担当教員	教室	対象クラス
50288	A	火2	日本語一列②	藤井 聖子	10-205	1年 文科 理科
51066	A	金2	日本語一列②	藤井 聖子	10-205	1年 文科 理科

身体運動・健康科学実習Ⅱ

身体運動・健康科学実習Ⅱ		開講区分	A
目標概要	週1回の授業を通じて 1.身体および身体運動に関する知識を習得する。 2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解（肌でわかる・体感する）のための基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体管理・操作技能を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。		
授業計画	第1回 教室で教科書を用いた授業（教室は9号館前の掲示を参照）、種目選択 第2回から 選択した種目での授業 学期中に2度 身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を行う。 12月に体力テストを行う。 体育館種目が別の場所に移動し、外種目を体育館で行うこともあるので、9号館前の掲示板を見ること。		
授業の方法	第1回目の授業で、種目選択を行う。スポーツコース（テニス、サッカー等）、フィットネスコース、サイエンスコースから選択する。その曜限に開設されている種目と説明は http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp を参照のこと。 種目選択以降は、各種目に分かれて行う。 基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各種目により様々なアプローチがなされる。 学期中に2回、身体運動の科学的理解を目的とした共通授業を、通常とは別の場所で行う。教室での授業、身体運動の科学的理解のための授業だけでなく、通常の授業でも教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくる。毎回の授業における心拍数、体力テストの結果等も教科書に記入する。 通常授業での説明、科学的理解のための共通授業、体力テスト等によって、学期末にレポートを提出する。		
成績評価方法	1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席（遅刻、早退、見学を含む）はきわめて重視される。 2 達成度 各自が選択履修している授業について、学習達成度の評価を行う。 3 体力テスト 12月に行い、評価に含める。 4 レポート 通常授業での説明、共通授業、体力テストの結果等を受けて、学期末にレポートを提出する。 5 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだけ理解しているのか、等を評価する。		
教科書	次の教科書を使用する。 書名 : 教養としての身体運動・健康科学 著者(訳者) : 東京大学身体運動科学研究室 出版社 : 東京大学出版会		
履修上の注意	種目選択後の種目変更は、特別な事情（病気、怪我など）が無い限り認めない。		
学習上のアドバイス	盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。		
関連ホームページ	http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp		
※講義の詳細については、UTASも参照すること			

時間割コード	曜限	担当教員	対象クラス
50059	月2	実技担当	1年 文三(4,11,16)理一(5,10-11,15,20-21,25-26)
50365	火3	実技担当	1年 文一二(12)理一(14,17-19,27-28,34-37)
50437	火4	実技担当	1年 文一二(1-5,8)文三(17-18)理二三(1-3,7-8,12,14,16,18)
50655	水3	実技担当	1年 文一二(7,14-15)文三(8)理一(7-8,12,30,39)
50725	水4	実技担当	1年 文一二(16,26-28)文三(9)理一(9,13,16)理二三(17,20,22)
50822	木2	実技担当	1年 文一二(6)理一(1-3,31-33)理二三(4-6,9-11,15,24)
50885	木3	実技担当	1年 文一二(9,23)文三(1-3,12,14-15)理一(4,6)理二三(13,19,21,23)
51113	金3	実技担当	1年 文一二(10-11,13,17-20)文三(5-7,10)
51180	金4	実技担当	1年 文一二(21-22,25)文三(13,19-20)理一(22-24,29,38)

身体運動・健康科学実習Ⅱ（メディカルケア）

スポーツ・身体運動実習（メディカルケア）	開講区分	A
<p>目標概要 週1回の授業を通じて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.身体および身体運動に関する知識を習得する。 2.自らの身体運動を対象とする実験実習や実技実習を通じて、事物の本質的理解（肌でわかる・体感する）のための基礎技術を習得する。 3.スポーツやトレーニングなどの文化的身体運動の実習による動きの改善・身体能力の向上を通じて、自己の身体の管理・操作技能を習得する。 4.生涯教育としての心身の健康教育・運動習慣の基礎作りを行う。 <p>授業計画 第1回目の授業は、クラス指定された身体運動・健康科学実習の曜限で受講する。第2回目以降からこの曜限で受講する。各自の状態に合わせて、実習を行う。</p> <p>授業の方法 基本的には自分の身体を動かして、実習することが第一であるが、各自の状態により様々なアプローチがなされる。教科書『教養としての身体運動・健康科学』を用いるので、毎回持ってくる。学期末にレポートを提出する。</p> <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 出席 身体運動・健康科学実習の意義は実際に身体を動かすことで、身体運動の科学的法則を認識するとともに、健康・体力・技能を増進し、またその方法を習得することにある。そこで出席（遅刻、早退、見学を含む）はきわめて重視される。 2 達成度 各自の学習達成度について評価を行う。 3 レポート 授業での説明、実習内容、その結果等を受けて、学期末にレポートを提出する。 4 その他 授業中にどのような態度で参加し、どのように自己の役割を認識し、実行しているか、学習内容をどれだけ理解しているのか、等を評価する。 <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : 教養としての身体運動・健康科学 著者（訳者） : 東京大学身体運動科学研究室 出版社 : 東京大学出版会</p> <p>履修上の注意 第1回目の授業は、クラス指定された身体運動・健康科学実習の曜限で受講する。そこで今後の指示を受け、第2回目以降から別の曜限（月1、月5、火1、水1のいずれか）で受講する。 クラス指定された曜限で他の授業を受講する場合のみ、教務登録は実際にメディカルケアコースを受講する曜限に変更する。その際には、教務課で配布する履修認定カード（3枚綴り）に必要事項を記入した上で、許可サイン欄に授業担当教員のサインをもらい、1枚目を教員に提出、2枚目を教務課に提出すること。ただし、クラス指定された曜限に他の授業を入れない場合は、教務登録はクラス指定された曜限のままでよい。</p> <p>学習上のアドバイス 盗難が多いので注意する。体育館は、土足、飲食禁止。</p> <p>関連ホームページ http://idaten.c.u-tokyo.ac.jp</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	授業科目名	担当教員	対象クラス
50018	月1	身体運動・健康科学実習Ⅱ（メディカルケア3）	実技担当	1年 文科 理科
50207	月5	身体運動・健康科学実習Ⅱ（メディカルケア1）	実技担当	1年 文科 理科
50269	火1	身体運動・健康科学実習Ⅱ（メディカルケア3）	実技担当	1年 文科 理科
50560	水1	身体運動・健康科学実習Ⅱ（メディカルケア2）	実技担当	1年 文科 理科

社会科学

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
50133	A	法Ⅱ	北村 朋史	教養学部(前期課程) 法・政治	月3	1313	1年 文二 文三 2年 文二 文三
<p>講義題目 国際社会と法</p> <p>目標概要 国際社会には、国内におけるような集権的な統治機関が存在しない。そうした社会において妥当する法とはどのような特徴を有し、どのように機能しているのだろうか。本授業では、近年の具体的な国際紛争事例にも触れながら、国家管轄権、国家領域、海洋の利用、国際通商、武力の行使等にかかわる法について解説し、国際社会における法の役割と限界について考察する。</p> <p>評価方法 定期試験によって評価する。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50535	A	法Ⅱ	成瀬 剛	教養学部(前期課程) 法・政治	水1	1225	1年 文一(1-3,22-28) 2年 文一
<p>講義題目 法学入門—刑事法の視点から</p> <p>目標概要 【文一のみ履修可】 法Ⅰの授業で法律・法学についての基本的な知識を習得したことを前提に、実際に判例や論文などを読むことを通して、法学を学ぶための基礎的な思考方法をもう一步踏み込んで修得することを目標とします。法Ⅰが民事法中心であったことを踏まえ、このクラスでは刑事法のテーマを中心に取り上げる予定です。 なお、13回の授業のうち2回（このクラスでは第8回と第9回）はフィッシャー先生による英語の授業です。その2回の内容は、『The origin and nature of the common law, and its role in contemporary legal issues (コモンローの起源と性質、及び、現代的な法的問題における役割)』です。 ※コモンローとは、制定法主義に立つ大陸法に対して、イギリス及びその法制を継受したアメリカ等の諸国の判例法体系を意味します。</p> <p>評価方法 定期試験により評価します。フィッシャー先生担当の2回の授業についても、試験を行います。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50536	A	法Ⅱ	福岡 安都子	教養学部(前期課程) 法・政治	水1	1106	1年 文一(4-14) 2年 文一
<p>講義題目 公法学のテキストを読む</p> <p>目標概要 【文一のみ履修可】 「法Ⅰ」で法学につき基礎的な知識を習得したことを前提に、引き続き、公法学分野の具体的素材とその読解を通じて、解釈の力を養うことを目指す。</p> <p>評価方法 基本的に定期試験に基づいて行いますが、授業における各種フィードバックの内容も加味します。 なお、フィッシャー先生担当の2回の授業についても試験を行います。詳細は授業の際に通知します。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50537	A	法Ⅱ	後藤 元	教養学部(前期課程) 法・政治	水1	1331	1年 文一(15-21) 2年 文一
<p>講義題目 ビジネスローと法解釈・立法</p> <p>目標概要 【文一のみ履修可】 この授業では、商法・会社法・消費者保護法・事業規制法などのビジネスローと総称される企業活動に関係する法分野を素材に、法律の解釈の方法や判例の読み方、制度改正を巡る議論への接し方、経済学等の他の社会科学の重要性などについて学習します。 なお、13回の授業のうち2回はJames Fisher准教授による英語の授業です。</p> <p>評価方法 定期試験により評価する。</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50134	A	政治Ⅱ	伊藤 武	教養学部(前期課程) 法・政治	月3	900	1年 文一 2年 文一
<p>講義題目 比較政治学入門</p> <p>目標概要 本講義は、専門課程における政治学系科目の基礎として、比較政治学の基本的な考え方を身に付けることを目的とします。 比較政治学は、国際政治学や政治思想史・政治理論と並ぶ政治学の重要な分野です。同時代や過去の多様な政治現象について、比較分析の手法と政治学理論を用いて考察することを通じて、特定の国や事例を見るだけでは分からない共通のメカニズム、事例の固有の特徴、そして新しい理論を導き出すことを目指した研究分野です。 本講義では、先進国だけでなく途上国も含んだより広い地域、新しい研究動向を踏まえたテーマも対象とします。選挙や政党政治、議会政治・執政政治など従来重要とされてきた領域に加えて、司法政治や規制政治など新しい領域も扱います。 さまざまな政治制度や社会経済的制度が、政治家や官僚、国民など政治に関わる多様なプレイヤーにどのようなインセンティブ（誘因）を与えるか、それぞれ良い政治の実現を求めるプレイヤーが集まっても結果が望むようなものにならないのはなぜか、一見非常に似た政治的条件を持つ国で同じ政治改革の結果が異なるのはなぜかなど、現実の政治を考える上でも意義深い問題を考えていきます。 授業の解説は基本的なレベルから行いますが、必要に応じて発展的内容も扱います。受講者の方は、それぞれの多様な関心に応じて取り組んで下さい。</p> <p>評価方法 ・定期試験 ・プレゼンテーション、小テスト、レポートなどの内容を付加的に考慮する場合があります。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : 政治学の第一歩 著者（訳者）：砂原庸介，稗田健志，多湖 淳 出版社 : 有斐閣 ISBN : 978-4-641-15025-6 (教科書は必ず入手してください。)</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50561	A	政治Ⅱ	荻田 真司	教養学部(前期課程) 法・政治	水1	525	1年 文二 文三 2年 文二 文三
<p>講義題目 デモクラシーと現代政治学</p> <p>目標概要 この講義では、現代政治学のいくつかの基本的な概念に関する議論を検討することで、政治学的な語彙を使った政治理解の一端を学ぶことを目標とする。 前半では、近代政治原理の最も中心的な要素である「デモクラシー」の持つ諸特質を考察し、現実世界のデモクラシーの多様性を理解するとともに、その現代的な諸問題について認識を深めることを目的とする。 後半では、現代政治学の歩みを振り返りつつ、政治を認識する様々な方法について考察するとともに、その対象となる「政治的なもの」についての理解を深めていく</p> <p>評価方法 定期試験により評価する</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50135	A	経済Ⅱ	丸山 真人	教養学部(前期課程) 経済・統計	月3	1225	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 人間の経済と資本の論理</p> <p>目標概要 人間の経済の根底には市場化に馴染まないものが実在しており、それを分析するためには、生命系のパラダイムに依拠するエントロピー経済学と、非市場の人間関係を究明してきた経済人類学の知見が必要である。ところで、現代資本主義は自然環境のみならず、社会関係や人間自身までも擬制的に資本化し、人間生活の全体を市場関係で覆い尽くそうとしている。このような現象の背後には資本の運動法則が存在しており、それを解明するには「資本論」のアプローチが不可欠である。本講義では、これらの学問的遺産を踏まえうえて、人間の経済を資本の論理から解放する方途を探求することを課題とする。</p> <p>評価方法 定期試験</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50516	A	経済Ⅱ	竹野 太三	教養学部(前期課程) 経済・統計	火5	900	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 経済Ⅱ 価格理論 目標概要 本講義では、経済学に興味を持つ前期課程文科生を対象に、価格理論の解説を行います。主として個人や単一企業レベルにおける意志決定過程の考察を基に、完全競争市場や不完全競争市場で達成される均衡の特性の分析を試みることに加え、厚生経済の第一、および第二定理に示される知見を紹介することを目的とします。従って、市場全体、或いは経済全体の特性を示す指標（例えば失業率やインフレ率、経済成長率など）に関わる分析をするマクロ経済学の解説は、本講義では行いません。なお、ミクロ経済学、マクロ経済学のいずれを先に学ぶかは重要ではありません。（履修計画の参考まで。） 評価方法 持ち込み不可の定期試験によります。 教科書 次の教科書を使用する。 書名 : 経済学の基礎 価格理論 著者(訳者) : 竹野太三 出版社 : 東京大学出版会 ISBN : 978-4-13-042146-1 ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50136	A	社会Ⅱ	井上 彰	教養学部(前期課程) 社会・社会思想史	月3	K212	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 分析的政治哲学入門 目標概要 本授業では、現代英米圏を中心に、政治理論においてメインストリームを形成している「分析的政治哲学」について学習する。分析的政治哲学とは、19世紀に生まれ、20世紀初頭から飛躍的な発展を遂げた分析哲学の道具立てを用いて、政治哲学上の鍵概念である「正義」「自由」「平等」等の構成要件を解明し、それらの主題や適用範囲を明らかにする学問領域である。本授業では、20世紀を代表する分析的政治哲学者であるJ・ロールズの議論をおさえたうえで、そこから発展した様々な論争の検討を通じて、分析的政治哲学の主題や鍵概念の適用範囲をめぐる議論についてわかりやすく解説する。その射程は、グローバル正義論や地球環境（排出権）問題、そして移民問題といった具体的な論点も含まれる。 評価方法 筆記試験の点数に、授業中に複数回課す小レポートの点数を加えて評価する。 教科書 教科書は使用しない。 ガイダンス 特に行わない。</p>							
50562	A	数学Ⅰ	山本 昌宏	教養学部(前期課程) 数学	水1	761	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 数学Ⅰ 目標概要 文科生向けに一変数関数の微分法と積分法に関する基礎的内容を扱う科目である。社会科学に関連する題材を織り交ぜ、数学的な概念を把握することに重点をおいて講義する。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。 評価方法 定期試験による。 教科書 授業中に指示をする。 ガイダンス 特に行わない。</p>							
50563	A	数学Ⅱ	寺田 至	教養学部(前期課程) 数学	水1	743	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 数学Ⅱ 目標概要 文科生向けの、ベクトルと行列に関する基礎的な内容や、計算法を理解するための科目である。講義内容はおおむね授業計画に記載されている通りであるが、担当教員によって順序は異なることがある。この科目を履修した後に、より進んだ内容を総合科目「数理科学概論Ⅱ」で学ぶことができる。 評価方法 定期試験による。 教科書 授業中に指示をする。 ガイダンス 特に行わない。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50137	A	哲学Ⅱ	乗立 雄輝	教養学部(前期課程) 哲学・科学史	月3	532	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 この世界が存在するという事について考える</p> <p>目標概要 (彼が初めてというわけではありませんが) ライブニッツが発して以来、現在に至るまでさまざまな哲学者や科学者たちの頭を悩ませ続けている「なぜ、何もないのではなく、何かがあるのか?」という問いを考察します。この問いを、最も根源的かつ重要な問いだと主張する哲学者もいる一方で、問いとして適切ではない、もしくは、考えるのが無駄な疑似問題だと批判する哲学者も少なくありません。しかし、この問いが妥当な問いなのかどうかを批判的に検証することも含めて、この問いを考察することは、この問いが関わる領域の広さゆえに、哲学的思考に必要な基本的な諸概念群を理解し、その諸概念を用いながらさまざまな問題を考えていくきっかけとなります。この講義では、この問いを考えていく中で、存在と無をめぐる問題、因果の問題、「説明する」とはどういうことなのか、原因と理由(根拠)の差異、可能性・偶然性・必然性をめぐる議論といった、これまで哲学者たちが悪戦苦闘してきた諸概念について学ぶと同時に、それらの諸概念を使って、参加者のみなさんが「なぜ、何もないのではなく、何かがあるのか?」という問いへの(この問いそのものの否定の可能性も含めた)応答を試みてほしいと考えます。</p> <p>評価方法 定期試験によって評価します。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50517	A	哲学Ⅱ	山本 芳久	教養学部(前期課程) 哲学・科学史	火5	1323	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 哲学の原典を読む</p> <p>目標概要 西洋哲学の基礎を、その原点に即しながら学ぶ。具体的には、古代ギリシアの哲学者アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と、西洋中世の哲学者トマス・アクィナスの『神学大全』を中心に、基本的なテキストを抜粋し、日本語で丁寧に読解していく。関連する範囲で、他の哲学者のテキストも読解する。</p> <p>評価方法 試験。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : トマス・アクィナス 理性と神秘 著者(訳者) : 山本芳久 出版社 : 岩波新書 ISBN : 978-4004316916</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50138	A	倫理Ⅱ	田中 智彦	教養学部(前期課程) 哲学・科学史	月3	K214	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 〈いのち〉と〈ひと〉のいまを問う</p> <p>目標概要 In order to have a sense of who we are, we have to have a notion of how we have become, and of where we are going. Charles Taylor</p> <p>私たちは今日、いのちとひとをめぐる倫理的にどのような状況にあるのだろうか。またその状況は、どのようにして今日あるようになったのだろうか。どのような明日をもたらさうのだろうか。</p> <p>この授業ではこうした問いについて考えてゆきたい。その過程において、私たちの生・病・老・死を取り囲んでいるいわば「4つのbio」——生権力(biopower)・生政治(biopolitics)・生命倫理(bioethics)・生命科学技術(biotechnology)——を歴史的・批判的に検討することになるだろう。</p> <p>したがって、倫理の諸理論を概説するという形はとらない。むしろ過去の、また現在の具体的な事例をとりあげ、そこにどのような問題を見いだすか、それらをどのように考えるかに関して一つの視座を示すことをつうじて、受講者一人ひとりが「ひととして限りあるいのちをいかに生きるべきか」という問いを自ら探究する手がかりを提供したいと思っている。</p> <p>評価方法 原則として〈レポート 75%〉〈授業参加度 25%〉で評価する。ただし、受講者数によってはレポートを試験に変更することもありうる。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
50518	A	歴史Ⅰ	杉山 清彦	教養学部(前期課程) 歴史学	火5	K011	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 中央ユーラシアから見た世界史</p> <p>目標概要 近代以前の世界史の主な舞台となってきたのはユーラシア大陸である。その内陸域、すなわち中央ユーラシアの人びとこそが、世界の各地域を結びつけるとともに、地域を超えて世界史を動かしてきた。本講義では、東西交渉史の枠組みや、「中国やヨーロッパの周辺の異民族」といった見方からではなく、中央ユーラシアに視座を置いて、ユーラシア世界史の展開を概観する。それを通して、あまり知られていない中央ユーラシア史の通史を示すとともに、さらにそこから新しい世界史・地域史を照らし出すことを目標とする。</p> <p>評価方法 期末の論述試験を主とし、講義中随時課す小テスト・小レポートなどの評価を加味して判断する。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50139	A	歴史Ⅱ	山口 輝臣	教養学部(前期課程) 歴史学	月3	522	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 19・20世紀日本における天皇と宗教</p> <p>目標概要 明治維新150年が明けると、平成最後の年のはじまりである。天皇が変わる、元号が変わるといったことから、天皇という存在への関心が高まるのはもちろん、おそらくは退位から即位への一連の儀礼を通じて、それと宗教との関わりにも注目が集まることだろう。</p> <p>そうした眼前の出来事を歴史的な視野のなかで考える素材と方法を提供しようというのがこの授業である。すなわち19～20世紀に焦点を当てながら、その前後の時期を含め、「天皇と宗教」の変遷を検討するものだからである。</p> <p>本授業を通じて、受講生が、「天皇と宗教」をはじめ日本や近代といったことについて自らで考えていくための素材を得ること、さらにそうした材料をもとに受講生が考えていくことにより、歴史研究という営為を理解すること。本年度の授業の目標はこの点にある。</p> <p>評価方法 授業への参加状況と定期試験を1：4で評価する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : 天皇の歴史09天皇と宗教</p> <p>著者（訳者）：小倉慈司・山口輝臣</p> <p>出版社 : 講談社学術文庫</p> <p>ISBN : 9784065126714</p> <p>上記は2018年8月刊行。2011年の元版でも構わないが、授業運営の方法上、必携とする。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50140	A	ことばと文学Ⅱ	田口 一郎	教養学部(前期課程) 国文・漢文学	月3	109	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 中国古典文学略史</p> <p>目標概要 漢詩・漢文を読むうえで必要となる中国古典文学の歴史を概観する。唐から清末までの文学の特徴と変遷を理解し、基本的知識（作品・作者等）を身につける。</p> <p>評価方法 授業内試験による。</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50519	A	ことばと文学Ⅲ	出口 智之	教養学部(前期課程) 国文・漢文学	火5	159	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 日本近現代小説読解法</p> <p>目標概要 日本の近代～現代に書かれた複数の小説を取上げ、近代文学研究のための基礎的な術語や視点、概念を学びつつ、文学作品の分析や研究方法について概説する。とりわけ、前期課程の科目として、高校までの国語教育とは異なる専門的な文学研究の方法・考え方を身につけることを重視する。そのうえで、講義で解説する文学理論や批評理論等の基礎を理解し、それを手がかりにして自分で作品を読解する力を身につけてほしい。</p> <p>評価方法 学期末に提出するレポートによる。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : 青の炎</p> <p>著者（訳者）：貴志祐介</p> <p>出版社 : 角川文庫</p> <p>ISBN : 9784041979068</p> <p>このほか、吉田修一『初恋温泉』（集英社文庫、978-4087464344）も用いる予定である。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50141	A	ことばと文学Ⅳ	中尾 まさみ	教養学部(前期課程) 英語	月3	164	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 英語圏の現代詩を読む</p> <p>目標概要 20世紀後半以降に英語で書かれた詩をとりあげ、テキストを精密に読んで分析する方法を学ぶとともに、詩の言語のありようについて考えます。現代詩は、形式においても主題においても伝統的な詩のあり方を逸脱し、自由で多様な言語世界を展開しています。脱植民地化を経て「英語圏」と認識される地域も著しく拡大し、また新しいメディアに乗って急速に伝播した大衆文化の影響も見逃せません。その豊かさを知力・想像力を最大限に使ってじっくり味わうことを目指します。</p> <p>評価方法 授業参加（口頭発表、ディスカッション）と定期試験</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50142	A	心理Ⅱ	本吉 勇	教養学部(前期課程) 心理・教育学	月3	1323	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 心理学概論</p> <p>目標概要 人間は、環境から受け取った光や音の情報をもとに、外界のモノや出来事を認識し、過去の記憶や与えられた状況に応じて適切に反応し、また他の人間と相互作用することができる。このすぐれて知的な能力はすべて脳の情報処理によるものである。認知科学(cognitive science)とは、心理学・神経生理学・情報工学が密接に結びつきながら、その仕組みを解明し制御することをめざす巨大な学問領域である。</p> <p>本講義では、多くの錯覚デモや模擬実験を体験しながら、知覚、認識、記憶、感情、思考、社会性といった「人の心の基本的な仕組み及び働き」を支えている脳情報処理の原理原則と、その背後にある生理学的・計算論的メカニズムの基礎を学ぶ。それによって、進化と学習が生み出した優れた情報処理マシンとしての脳と人間を理解するための視点を身につけることをめざす。人工知能を含めた現代と未来の脳工学技術や「心理学の成り立ち」にも触れる。</p> <p>評価方法 出席および定期試験による。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50564	A	心理Ⅱ	上原 泉	教養学部(前期課程) 心理・教育学	水1	1323	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 心理学概論</p> <p>目標概要 心理学の成り立ちと、人の心の基本的な仕組み及び働きについて、学ぶことを主な目標とする。個々の認知能力や心の在り様が人の生涯においてどのように発達し、また変わっていくのかという点も検討することで、本質的な理解につながっていくことを目指す。人の心は科学的に扱うことが難しい部分もあるため、とすれば、人の心に関する一般的な理解において誤解が生じることがある。心理学の知見は、心理学ならではの実験や調査手法に基づいている。本講義内では、実験例や調査例も随時紹介していく。</p> <p>評価方法 持ち込み禁止の定期試験。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

基礎実験

基礎実験

目標概要	<p>自然科学の学習に不可欠な基本的な知識・技能を習得する。</p> <p>1) 将来の自然科学の発展に対応できるように、自然科学諸分野の基礎的な実験方法と概念を理解できるようにする。</p> <p>2) 基礎講義の内容を、基礎実験によってよりよく理解できるようにする。</p> <p>3) 未知の自然現象の解明を目的とする研究実験に必要な観察力・姿勢を養い、みずから実験を計画する場合に不可欠な基本的技法を習得できるようにする。</p> <p>月曜から金曜の指定された曜日に週1回受講する。</p> <p>基礎実験は班に別れて行う。班分け、実施日程ならびに各班の実験種目ローテーションをKOMCEE Eastに掲示するので前もって確認しておくこと。</p>
授業の方法	<p>【実験開始と終了】</p> <p>13:00に実験を開始する。その時に、実験に関する説明・注意等をするので遅刻は厳禁である。化学実験では13:20以降の遅刻は必ず欠席扱いとなる。ただし、13:20以内の遅刻でも予習が不足していた場合、欠席扱いになることがあるので注意すること。物理学実験では13:30以降の遅刻は欠席扱いとなる。</p> <p>実験が終了し、データの解析を終えたら、実験ノートと実験報告書に必要な事項を書き、要求されているサンプル等を持って、試問を受けること。OKならばノートに検印を受ける。</p> <p>きちんと後片付けをしてすみやかに退室すること。内容が十分でない場合は、再実験、再解析を指示する。</p> <p>欠席：原則として、欠席に対する補充実験は認めない。</p> <p>遅刻：遅刻は大きく減点する。</p> <p>予習：必ず自分が受講する種目を予習しておくこと。予習してこない場合、実験の進行に支障を来す。グループで実験を行う場合、他のメンバーに大変迷惑をかけることになる。</p> <p>また、実験全体の流れを前もって把握しておくことは事故を回避するためにも必ず必要なことである。従って、予習を行ってこなかったものに対しては実験を行うことを認めない。</p> <p>早退：早退は欠席扱いとなる。</p> <p>後片付け：後片付けが悪い場合は減点とする。</p> <p>退室：実験を終了したら必ず終了時のチェック、試問を受けること。OKならばすみやかに退室する。</p> <p>【用意するもの】</p> <p>物理系種目：教科書『基礎物理学実験』、実験ノート(B5版)、グラフ用紙、計算機を用意すること。</p> <p>化学系種目：教科書『基礎化学実験』、実験ノート(B5版)、計算機、白衣、保護メガネを用意すること。</p> <p>【提出物】</p> <p>物理系実験：実験終了後、実験ノート、解析結果を提示し、試問を受け、最終実験日に実験ノートを提出する</p> <p>化学系実験：実験終了後、実験ノート、サンプル、グラフなどを提示し、実験報告を行い、1週間後に実験報告書を提出する</p>
成績評価方法	成績は、出席、予習、実験ノート、試問、後片付け、提出物（化学実験は実験報告書、物理学実験は実験ノート）で評価する。
教科書	<p>次の教科書を使用する。</p> <p>書名：『基礎物理学実験』、 『基礎化学実験』</p> <p>著者（訳者）：基礎物理学実験テキスト編集委員会、教養学部化学部会</p> <p>出版社：学術図書出版社、 東京化学同人</p>
履修上の注意	<p>過去ノートの持ち込みはカンニング行為とみなす</p> <p>携帯・スマホ・デジカメなどの記憶媒体の使用は禁止。</p> <p>使用は不正行為とみなし厳正に処分する。</p> <p>館内および外階段は全面禁煙とする。実験室内は飲食禁止。</p>
関連ホームページ	http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/chemistry/exp/index.html
※講義の詳細については、UTASも参照すること	

時間割コード	開講	曜 限	科目名	対象クラス
50096	A 1	月3, 月4	基礎実験 I (物理学)	1年 理一(1-3,5,7-9,12-14)
50411	A 1	火3, 火4	基礎実験 I (物理学)	1年 理一(20-25)
50697	A 1	水3, 水4	基礎実験 I (物理学)	1年 理一(4,6,29,31,33-35,38)
50912	A 1	木3, 木4	基礎実験 I (物理学)	1年 理一(10-11,15-19)
51141	A 1	金3, 金4	基礎実験 I (物理学)	1年 理一(26-28,30,32,36-37,39)
60003	A 2	月3, 月4	基礎実験 II (物理学)	1年 理一(1-3,5,7-9,12-14)

時間割コード	開講	曜 限	科目名	対象クラス
60059	A 2	火3, 火4	基礎実験Ⅱ(物理学)	1年 理一(20-25)
60194	A 2	水3, 水4	基礎実験Ⅱ(物理学)	1年 理一(4,6,29,31,33-35,38)
60206	A 2	木3, 木4	基礎実験Ⅱ(物理学)	1年 理一(10-11,15-19)
60224	A 2	金3, 金4	基礎実験Ⅱ(物理学)	1年 理一(26-28,30,32,36-37,39)
50097	A 1	月3, 月4	基礎実験Ⅰ(化学)	1年 理一(1-3,5,7-9,12-14)
50413	A 1	火3, 火4	基礎実験Ⅰ(化学)	1年 理一(20-25)
50699	A 1	水3, 水4	基礎実験Ⅰ(化学)	1年 理一(4,6,29,31,33-35,38)
50913	A 1	木3, 木4	基礎実験Ⅰ(化学)	1年 理一(10-11,15-19)
51532	A 1	金3, 金4	基礎実験Ⅰ(化学)	1年 理一(26-28,30,32,36-37,39)
60005	A 2	月3, 月4	基礎実験Ⅱ(化学)	1年 理一(1-3,5,7-9,12-14)
60061	A 2	火3, 火4	基礎実験Ⅱ(化学)	1年 理一(20-25)
60195	A 2	水3, 水4	基礎実験Ⅱ(化学)	1年 理一(4,6,29,31,33-35,38)
60208	A 2	木3, 木4	基礎実験Ⅱ(化学)	1年 理一(10-11,15-19)
60225	A 2	金3, 金4	基礎実験Ⅱ(化学)	1年 理一(26-28,30,32,36-37,39)
50124	A 1	月3, 月4	基礎物理学実験	1年 理二三(1-4,6-8) 奇数
50416	A 1	火3, 火4	基礎物理学実験	1年 理二三(11,13,15,17) 奇数
50704	A 1	水3, 水4	基礎物理学実験	1年 理二三(14,21,23-24) 奇数
50921	A 1	木3, 木4	基礎物理学実験	1年 理二三(5,9-10,20,22) 奇数
51150	A 1	金3, 金4	基礎物理学実験	1年 理二三(12,16,18-19) 奇数
60006	A 2	月3, 月4	基礎物理学実験	1年 理二三(1-4,6-8) 偶数
60062	A 2	火3, 火4	基礎物理学実験	1年 理二三(11,13,15,17) 偶数
60196	A 2	水3, 水4	基礎物理学実験	1年 理二三(14,21,23-24) 偶数
60209	A 2	木3, 木4	基礎物理学実験	1年 理二三(5,9-10,20,22) 偶数
60226	A 2	金3, 金4	基礎物理学実験	1年 理二三(12,16,18-19) 偶数
50125	A 1	月3, 月4	基礎化学実験	1年 理二三(1-4,6-8) 偶数
50417	A 1	火3, 火4	基礎化学実験	1年 理二三(11,13,15,17) 偶数
50705	A 1	水3, 水4	基礎化学実験	1年 理二三(14,21,23-24) 偶数
50922	A 1	木3, 木4	基礎化学実験	1年 理二三(5,9-10,20,22) 偶数
51151	A 1	金3, 金4	基礎化学実験	1年 理二三(12,16,18-19) 偶数
60007	A 2	月3, 月4	基礎化学実験	1年 理二三(1-4,6-8) 奇数
60063	A 2	火3, 火4	基礎化学実験	1年 理二三(11,13,15,17) 奇数
60197	A 2	水3, 水4	基礎化学実験	1年 理二三(14,21,23-24) 奇数
60210	A 2	木3, 木4	基礎化学実験	1年 理二三(5,9-10,20,22) 奇数
60227	A 2	金3, 金4	基礎化学実験	1年 理二三(12,16,18-19) 奇数

数理学

微分積分学②	開講区分	A
<p>目標概要 代数学、幾何学とともに、数学の根幹をなす解析学について、その基本的な考え方や方法を学ぶ。力学における運動方程式などに代表されるように、自然界の多くの現象が、微分積分学を用いて記述される。微分積分学は、あらゆる科学技術の基礎となっている。微分積分学は17世紀末に、ニュートンやライブニッツらによって創成された。ニュートンは量の変化の記述に注目し、速度、加速度などの物理量を表現するために微分概念を導入した。「微分積分学の基本定理」により、区分求積法によって定義される積分は、微分の逆操作であることが、明確に認識されるようになった。</p> <p>微分積分学では、極限をとること、無限和をとることなどの操作が重要な役割を果たす。このような微分積分学の基礎となる極限の厳密な定義は、19世紀後半から整えられていった。この授業では、「数理学基礎」で学んだ極限の扱いに基づき、微分積分学の基礎と応用を学ぶ。具体的な項目は以下の通りである。S2タームで項目1,2を扱い、Aセメスターで項目3~6を扱うことを目安とするが、担当教員によって、順序や内容に一部変更が加えられる場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一変数関数の微分 (微分の基本性質, テーラーの定理, テーラー展開) 2. 多変数関数の微分 (偏微分と全微分, 合成関数の微分の連鎖律) 3. 多変数関数の微分 (続き)(高階偏微分, 多変数のテーラーの定理とその応用) 4. 一変数関数の積分 (区分求積法, 微分積分学の基本定理) 5. 多変数関数の積分 (多重積分と累次積分, 多重積分の変数変換公式) 6. 無限級数と広義積分 (関数列の収束, 広義積分) <p>実数の連続性に基づく微分積分学の基礎の厳密な展開は、2年次Sセメスターの総合科目「解析学基礎」で学ぶことができる。将来、本格的に数学を使う分野に進学しようという場合は「解析学基礎」によって微分積分学の理論的基礎を修得することをすすめる。なお、「解析学基礎」は1年次Sセメスターでも履修することができる。また、2年次Sセメスターの総合科目として、「微分積分学」の直接的な続きにあたる「微分積分学統論」、および「微分積分学」で学んだ事項の応用にあたる「常微分方程式」、「ベクトル解析」が開講される。</p> <p>成績評価方法 この科目はS2タームに開講された「微分積分学①」と一体であり、成績はS2ターム末に行われた中間試験と、Aセメスター末の定期試験とを併せて評価する。担当教員によっては小テストやレポートの成績を加味する場合がある。</p> <p>教科書 各授業のシラバスを参照すること。</p> <p>関連ホームページ http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/~sugaku/calculus.html</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
51444	月2	山本 昌宏	724	1年 理二三(14-17)
51445	月2	林 修平	741	1年 理二三(18-20)
51446	月2	山浦 義彦	723	1年 理二三(21-24)
51450	月4	斎藤 毅	724	1年 理一(20-23)
51451	月4	WILLOX RALPH	723	1年 理一(24-27)
51452	月4	松田 茂樹	523	1年 理一(28-31)
51453	月4	高山 茂晴	741	1年 理一(32-35)
51454	月4	足助 太郎	721	1年 理一(36-39)
51461	火4	辻 雄	532	1年 理一(1,17-19)
51462	火4	大場 清	723	1年 理一(2,4,5,8)
51463	火4	斉藤 義久	724	1年 理一(3,11-13)
51464	火4	篠原 克寿	741	1年 理一(6-7,9-10)
51465	火4	大坪 紀之	523	1年 理一(14-16)
51472	水3	米田 剛	721	1年 理二三(1-7)
51473	水3	小木曾 啓示	523	1年 理二三(8-10)
51474	水3	岡崎 龍太郎	524	1年 理二三(11-13)

線型代数学②	開講区分	A
<p>目標概要 線型代数学の萌芽である行列は多変数の連立一次方程式を効率的、統一的に扱う手法として発明された。また、行列式は方程式の解がただ一つ存在するための条件として発見された。ベクトルの概念の起こりは古典力学にあり、その意味で線型代数学の歴史は古い。しかし行列の本質である線型性概念の真の威力が認識され、数学の一分野として線型代数学が確立したのは新しく、20世紀にはいつてのことであった。</p> <p>自然界や社会科学における現象は一般には複雑で一次方程式で表せることはまれだが、一次近似によりその本質的な部分をとらえることは常套手段であり、線型代数学の考え方は非常に有効である。また、量子力学や、フーリエ解析などに現れる無限次元のベクトル空間を扱うための基礎ともなっており、線型代数学の応用については枚挙にいとまがない。このように、線型代数学の考え方は現代数学や理論物理学においてはもちろんのこと、工学、農学、医学、経済学などにおいても基本的な考え方として浸透しており、応用範囲も広い。線型代数学は理論的には単純で明快であるが、その反面、抽象的な概念操作にある程度慣れないと理解しにくい面もある。線型代数学を身につけるには、演習などのさまざまな問題にあたり、理解を深めることが必要である。「数理学基礎」において学んだベクトルと線型写像に関する知識を前提とする。</p> <p>S2タームでUTASシラバス「授業計画」の項目1, 2を扱い、Aセメスターで項目3~6を扱うことを目安とするが、担当教員によって、順序や内容に一部変更が加えられる場合がある。</p> <p>成績評価方法 この科目はS2タームに開講された「線型代数学①」と一体であり、成績はS2ターム末に行われた中間試験と、Aセメスター末の定期試験とを併せて評価する。担当教員によっては小テストやレポートの成績を加味する場合がある。</p> <p>教科書 各授業のUTASシラバスを参照すること。</p> <p>関連ホームページ http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/~sugaku/linear_algebra.html</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50554	水1	高木 俊輔	721	1年 理二三(1-7)
50555	水1	村上 順	523	1年 理二三(8-10)
50556	水1	吉野 太郎	524	1年 理二三(11-13)
50557	水1	植野 義明	724	1年 理二三(14-17)
50558	水1	中山 能力	741	1年 理二三(18-20)
50559	水1	坂井 秀隆	723	1年 理二三(21-24)
50916	木3	梶原 健	724	1年 理一(20-23)
50917	木3	山崎 満	723	1年 理一(24-27)
50918	木3	田中 公	523	1年 理一(28-31)
50919	木3	下川 航也	741	1年 理一(32-35)
50920	木3	飯田 正敏	721	1年 理一(36-39)
51132	金3	戸瀬 信之	721	1年 理一(1,17-19)
51133	金3	大田 佳宏	723	1年 理一(2,4-5,8)
51134	金3	白石 潤一	724	1年 理一(3,11-13)
51135	金3	関口 英子	741	1年 理一(6-7,9-10)
51136	金3	北山 貴裕	523	1年 理一(14-16)

微分積分学演習・線型代数学演習

目標概要 数学は講義を聴いただけでは意味を理解することが難しく、自分の手を動かして計算や証明をやってみる必要がある。この2つの科目は微分積分学や線型代数学の講義と一体であり、練習問題を解くことによって講義に対する理解を助け、応用力を養う。講義内容に即した応用問題の他に、講義の理解を深めるための証明問題や、講義で触れられなかった内容に関する補足問題を適宜付け加えることもある。

成績評価方法 通常は定期試験を行わず、平常の出席点と対応する講義の試験結果とを組み合わせ、授業時間に発表した解答・提出レポート・小テストなどを適宜勘案した総合評価をもって成績とする。出席点が重視されるため、欠席を重ねると単位を出せなくなることもある。

教科書 各授業のUTASシラバスを参照すること。

関連ホームページ <http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/~sugaku>

※講義の詳細については、UTASも参照すること

時間割コード	曜限	科目名	担当教員	教室	対象クラス
50127	月3	微分積分学演習	竹内 知哉	724	1年 理二三(14-17)
50128	月3	線型代数学演習	竹内 知哉	724	1年 理二三(14-17)
50129	月3	微分積分学演習	鮑 園園	741	1年 理二三(18-20)
50130	月3	線型代数学演習	鮑 園園	741	1年 理二三(18-20)
50131	月3	微分積分学演習	中村 勇哉	723	1年 理二三(21-24)
50132	月3	線型代数学演習	中村 勇哉	723	1年 理二三(21-24)
50500	火5	微分積分学演習	山本 昌宏	721	1年 理一(1,17-19)
50501	火5	線型代数学演習	寺田 至	721	1年 理一(1,17-19)
50502	火5	微分積分学演習	清野 和彦	723	1年 理一(2,4-5,8)
50503	火5	線型代数学演習	清野 和彦	723	1年 理一(2,4-5,8)
50504	火5	微分積分学演習	斉藤 義久	724	1年 理一(3,11-13)
50505	火5	線型代数学演習	寺杣 友秀	524	1年 理一(3,11-13)
50506	火5	微分積分学演習	牛腸 徹	741	1年 理一(6-7,9-10)
50507	火5	線型代数学演習	牛腸 徹	741	1年 理一(6-7,9-10)
50508	火5	微分積分学演習	竹内 知哉	523	1年 理一(14-16)
50509	火5	線型代数学演習	竹内 知哉	523	1年 理一(14-16)
50738	水4	微分積分学演習	牛腸 徹	721	1年 理二三(1-7)
50739	水4	線型代数学演習	牛腸 徹	721	1年 理二三(1-7)
50740	水4	微分積分学演習	小木曾 啓示	523	1年 理二三(8-10)
50741	水4	線型代数学演習	松井 千尋	523	1年 理二三(8-10)
50742	水4	微分積分学演習	中村 勇哉	524	1年 理二三(11-13)
50743	水4	線型代数学演習	中村 勇哉	524	1年 理二三(11-13)
50961	木4	微分積分学演習	斎藤 毅	724	1年 理一(20-23)
50962	木4	線型代数学演習	梶原 健	724	1年 理一(20-23)
50963	木4	微分積分学演習	WILLOX RALPH	723	1年 理一(24-27)
50964	木4	線型代数学演習	山崎 満	723	1年 理一(24-27)

時間割コード	曜限	科目名	担当教員	教室	対象クラス
50965	木4	微分積分学演習	間瀬 崇史	523	1年 理一(28-31)
50966	木4	線型代数学演習	田中 公	523	1年 理一(28-31)
50967	木4	微分積分学演習	清野 和彦	741	1年 理一(32-35)
50968	木4	線型代数学演習	清野 和彦	741	1年 理一(32-35)
50969	木4	微分積分学演習	足助 太郎	721	1年 理一(36-39)
50970	木4	線型代数学演習	足助 太郎	721	1年 理一(36-39)

数理学基礎 (補修)	開講区分	A
<p>目標概要 科学・技術の礎となる数理学の基礎的内容を学び、高等学校で学んだ数学から大学で学ぶ数学への橋渡しとする。</p> <p>講義は微分積分と線型代数の二つのテーマからなる。本科目の講義内容はS2タームから始まる「微分積分学」「線型代数学」に接続する。</p> <p>成績評価方法 各UTASシラバスを参照</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>関連ホームページ http://faculty.ms.u-tokyo.ac.jp/~sugaku/ms_sl.html</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50208	月5	逆井 卓也	722	1年 理科 2年 理科
50767	水5	高木 俊輔	722	1年 理科 2年 理科

電磁気学 A	開講区分	A
<p>目標概要 電気・磁気の法則を電荷やその運動による電流が作り出す電磁場の法則として捉える事によって、電磁気現象を統一的に理解し、基礎方程式としてのマクスウェル方程式に至る。また、代表的な例題の解法を通じて、その内容と応用の理解を深める。主な項目は以下の通りであるが、実際の内容や順序は教員によって多少の違いがあり、特に*印のついた項目は省略される場合がある。</p> <p>1. 序論：自然界の基本的力と電磁場、ローレンツ力、電荷の保存</p> <p>2. 静電場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クーロンの法則とガウスの法則 ・電位とその性質 ・静電場の微分方程式（ガウスの定理、ストークスの定理） ・導体系 ・静電場のエネルギーとストレス <p>3. 定常電流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則、連続の方程式 ・回路への応用（キルヒホフの法則） ・ジュール熱 <p>4. 定常電流による磁場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンペールの法則 ・静磁場の微分方程式 ・ベクトルポテンシャル ・ビオー・サヴァールの法則 ・円電流と等価磁石 ・単位系 <p>5. 電磁誘導とマクスウェル方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファラデー・レンツの法則 ・変位電流と連続の方程式 ・マクスウェル方程式 ・電磁場のエネルギーと仕事 ・平面電磁波 ・準定常電磁場と交流回路 <p>*6. 物質中の電磁場</p> <ul style="list-style-type: none"> * 考え方：分極電荷、磁化電流 * 誘電体、磁性体（常磁性、反磁性、強磁性） * 異なった物質の間の境界条件 * 物質中の電磁場エネルギー <p>成績評価方法 定期試験。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50619	水2	若本 祐一	524	1年 理一(1-6)
50625	水2	多田 司	531	1年 理一(30-33)
50626	水2	佐野 雅己	532	1年 理一(34-36)
50627	水2	大井 万紀人	721	1年 理一(37-39)
50628	水2	森松 治	533	1年 理二三(1-3,22,24)
50629	水2	下村 裕	523	1年 理二三(4,19-20)
50838	木2	下村 裕	523	1年 理一(7-9,28)
50852	木2	大川 祐司	524	1年 理一(19,21-22)
50853	木2	前田 京剛	741	1年 理一(23-24,26-27)

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50855	木2	富谷 光良	721	1年 理一(29)理二三(7,13)
50858	木2	和達 大樹	533	1年 理二三(8,14,18)
50859	木2	関野 恭弘	531	1年 理二三(12,16-17)
51184	金4	年吉 洋	523	1年 理一(10-11,18)
51186	金4	秋山 英文	533	1年 理一(12-13,20)
51187	金4	町田 友樹	721	1年 理一(14-15,25)
51188	金4	國場 敦夫	723	1年 理一(16-17)理二三(5,23)
51199	金4	藤山 茂樹	724	1年 理二三(6,9-10)
51200	金4	大谷 宗久	524	1年 理二三(11,15,21)

電磁気学 B	開講区分	A
<p>目標概要 入学試験で物理学を選択しなかった学生で希望する者を対象とする。 高等学校で未履修であること前提とした講義を行う。 講義では演習、宿題等を十分に課する。 目的は大学レベルの電磁気学を習得してもらう事である。入試において物理学を選択したものは受講資格がない。主な内容は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：自然界の基本的力と電磁場、ローレンツ力、電荷の保存 2. 静電場 <ul style="list-style-type: none"> ・クーロンの法則とガウスの法則 ・電位とその性質 ・静電場の微分方程式（ガウスの定理、ストークスの定理） ・導体系、導体に働く力、静電場のエネルギーとストレス 演習 3. 定常電流 <ul style="list-style-type: none"> ・オームの法則、連続の方程式 ・回路への応用（キルヒホフの法則） ・ジュール熱 4. 定常電流による磁場 <ul style="list-style-type: none"> ・アンペールの法則 ・ビオー・サヴァールの法則 ・電流に働く力 ・円電流と等価磁石 ・磁場のエネルギー ・単位系 5. 時間的に変動する電磁場 <ul style="list-style-type: none"> ・ファラデー・レンツの電磁誘導の法則 ・交流回路 6. 変位電流とマクスウェル方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・変位電流と電荷の保存 ・マクスウェル方程式（積分形） ・平面電磁波 演習 <p>成績評価方法 定期試験。 教科書 教科書は使用しない。</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50620	水2	陶山 明	741	1年 理一(1-6,30-39)理二三(1-4,19-20,22,24)
50839	木2	菊川 芳夫	521	1年 理一(7-9,19,21-24,26-29)理二三(7-8,12-14,16-18)
51185	金4	齋藤 晴雄	K402	1年 理一(10-18,20,25)理二三(5-6,9-11,15,21,23)

構造化学	開講区分	A
<p>目標概要 物質の多様な構造や性質、反応を体系的に理解するには、原子や分子に基づいた化学的な考察が不可欠である。本講義では、初歩的な量子論に基づいて、原子の構造や周期律、分子の化学結合の基礎を学ぶ。理論的な基礎だけでなく、契機となった実験結果や身近な物質・現象を通して理解を深めることを目指す。各教員が共通して取り上げる具体的な項目は、下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 量子論の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・原子の発光スペクトル (離散的なエネルギー準位, Bohr原子) ・電子の粒子性と波動性 (電子回折, 物質波) 2. 量子論の基礎 <ul style="list-style-type: none"> ・Schrödinger方程式 (原子・分子の量子論の出発点) ・1次元箱中の電子 (ポリエンの吸収スペクトルと色) ・2原子分子の振動 (振動スペクトルと分子構造) 3. 原子の構造と性質 <ul style="list-style-type: none"> ・水素原子 (量子数, エネルギー準位, 原子軌道) ・Pauliの排他原理 (電子スピン) ・多電子原子 (元素の周期律と構成原理) 4. 化学結合と分子 <ul style="list-style-type: none"> ・水素分子イオン (分子軌道, 化学結合) ・2原子分子 (分子の性質と電子構造) <p>成績評価方法 ※各授業のUTASシラバスを参照すること</p> <p>教科書 その他。 ※各授業のUTASシラバスを参照すること</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50071	月2	青木 優	523	1年 理一(7,9,22,31)
50075	月2	立川 仁典	524	1年 理一(32-34,38)
50077	月2	村田 昌之	531	1年 理二三(1-6,13)
50099	月3	安池 智一	523	1年 理一(4,6,10,30)
50126	月3	豊田 太郎	524	1年 理二三(10-12)
50260	火1	河野 淳也	524	1年 理一(11-12,24)
50262	火1	青木 優	523	1年 理一(27-29,35)
50263	火1	十代 健	531	1年 理二三(7-8,15)
50415	火3	横川 大輔	531	1年 理二三(9,14,19-20)
50418	火3	小安 喜一郎	532	1年 理二三(21-24)
50701	水3	澁田 靖	531	1年 理一(15-18)
50702	水3	中田 真秀	532	1年 理一(19-20,36)
50734	水4	齊藤 圭亮	531	1年 理一(14,21,25)
50737	水4	山口 和也	532	1年 理一(23,26,37,39)
50910	木3	横川 大輔	531	1年 理一(1-3,5,8,13)
50925	木3	瀬川 浩司	532	1年 理二三(16-18)

生命科学Ⅱ	開講区分	A
<p>目標概要 細胞生物学を中心に細胞の構造と機能の初歩を講義する。内容はほぼ以下の通りであるが、講義の具体的な進め方は教員によって多少異なることもある。開講時の説明をよく聞くこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞内輸送 2. 細胞骨格と細胞運動 3. 細胞間・細胞内情報伝達 4. 神経伝達と機能 5. 細胞周期 6. 動物・植物の発生 7. 遺伝子の発現制御 8. ゲノムと進化 9. 生物多様性 <p>成績評価方法 定期試験に加え、小テスト・レポートなどを加味し総合的に評価する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : 理系総合のための生命科学－分子・細胞・個体から知る“生命”のしくみ－第三版 著者（訳者）：東京大学生命科学教科書編集委員会 編 出版社 : (株) 羊土社 ISBN : 978-4-7581-2039-5</p> <p>※講義の詳細については、UTASも参照すること</p>		

時間割コード	曜限	担当教員	教室	対象クラス
50189	月4	渡邊 雄一郎	1101	1年 理二三(9-10,14,16)
50191	月4	豊島 陽子	1102	1年 理二三(17-18,21-22)
51048	金1	道上 達男	523	1年 理二三(8,11-12,15)
51049	金1	佐藤 健	524	1年 理二三(19-20,23-24)
51144	金3	太田 邦史	524	1年 理二三(1-7,13)

社会科学ゼミナール

※社会科学ゼミナールの各科目は、2014年度以前の入学者は履修することができないので、注意すること。

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
51282	A	社会科学ゼミナール (法・政治)	新田 一郎	法学部	月5	117	1年 文科 理科
<p>講義題目 戸籍の社会史</p> <p>目標概要 明治～昭和初期の或る一群の戸籍を題材に、資料からいかに問題を析出するか、いかにして調べを進めてゆくかを、さまざまな留意点とともに例示的に学ぶ。戸籍の表面には或る具体的な人間関係が、背景をなす社会制度・法制度に条件づけられて投射されている。表面と背景、それぞれの細部に徹底的にこだわり、戸籍において交錯する「個人」と「制度」を多面的かつ立体的に把握することをめざす。</p> <p>履修希望者が15名を大きく超えた場合は、小テストを課して選考することがあるので、初回授業に必ず出席すること。受講許可は第2回目までに掲示によって告知する。</p> <p>評価方法 授業中のパフォーマンスおよび期末レポートによる。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
51283	A	社会科学ゼミナール (法・政治)	宍戸 常寿	法学部	火2	515	1年 文科 理科
<p>講義題目 古典で読む憲法</p> <p>目標概要 現代立憲主義の源流となる西洋政治思想の古典を読み、理解を深める。</p> <p>評価方法 出席、報告、質疑応答等を総合的に判断する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。</p> <p>書名 : 古典で読む憲法</p> <p>著者(訳者) : 曾我部真裕・見平典</p> <p>出版社 : 有斐閣</p> <p>ISBN : 978-4-641-13185-9</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51256	A	社会科学ゼミナール (法・政治)	福岡 安都子	教養学部(前期課程) 法・政治	金2	117	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 シュトライス『ドイツ公法史入門』講読</p> <p>目標概要 ヨーロッパを代表する公法史家ミヒャエル・シュトライス (Michael Stolleis, 1941-) の近著、『ドイツ公法史入門』(Öffentliches Recht in Deutschland: Eine Einführung in seine Geschichte 16.-21. Jahrhundert, C.H. Beck 2014) を講読する。</p> <p>シュトライスの中核的な業績に17世紀から現代に至るドイツにおける公法の発展を通史的に描く四巻本の大著があるが、その精髓を一冊にまとめたのが本書であり、憲法、行政法、租税法といった広い意味での公法とそれについての学問がドイツにおいてどのように発展してきたかについて俯瞰図を提供してくれる。成文憲法成立以前の“憲法”がどのようなものであったのかであるとか、大きな歴史的事件を通じて法がどのように変化していくのかなど、外国の読者にとっても興味深い点を多く含んでいることは、本書が既に英語やフランス語を含む各国語に翻訳されていることからもうかがわれる。</p> <p>著者一流の明晰なドイツ語で書かれた本文は、初めてドイツ語で何か学問的なものを読んでみたいという者に非常に好適と言えよう。もちろん、ドイツ語未履修の者が、英訳版 (Public Law in Germany: A Historical Introduction from the 16th to the 21st Century, Oxford University Press, 2017) などの助けを借りつつゼミに参加することも妨げない。</p> <p>参加希望者は第一回目の授業の際に初年次ゼミナール文科の小論文を持参し提出すること。学年又は所属科類の関係で初年次ゼミナール文科を履修していない場合には、同科目の課題である小論文と同等のもの(社会科学のいずれかの分野におけるテーマで、履修を希望する授業の内容と関連するものを一つ選び、それについて、既存の研究や議論を可能な範囲で踏まえた上で検討し、かつ自身の考えを加えて、約4000字程度にまとめたもの)を第一回目の授業までに作成し、第一回目の授業の際に提出すること。</p> <p>評価方法 全回出席を前提に、講読の準備程度や小論文の成果に基づき総合的に評価する。</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>書名 : Öffentliches Recht in Deutschland. Eine Einführung in seine Geschichte. 16.-21. Jahrhundert</p> <p>著者(訳者) : Michael Stolleis</p> <p>出版社 : C. H. Beck</p> <p>ISBN : 978-3-406-65943-0</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
50289	A	社会科学ゼミナール (国際関係)	古城 佳子	教養学部(前期課程) 国際関係	火2	114	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 国境なき国際政治を考える</p> <p>目標概要 現在の国際関係において、主権国家だけでは対応できない課題が増加している。これらの問題は、グローバル・イシューと呼ばれている。これらの問題に対応していくには、主権国家の能力に限界があることが指摘されている。この問題をいち早く指摘し非国家主体の影響力を論じたストレンジ『国家の退場—グローバル経済の新しい主役たち』(櫻井公人訳、1998年)を読んだ上で、更に文献を読み進み、グローバル・イシューへの対応を検討する。</p> <p>受講者数は20名を上限とする。受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。</p> <p>評価方法 授業への参加度と課題の小論文により評価する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : 『国家の退場—グローバル経済の新しい主役たち』 著者(訳者) : ストレンジ(櫻井公人訳) 出版社 : 岩波書店 絶版になっているので、文献は用意する</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50290	A	社会科学ゼミナール (社会・社会思想史)	橋本 摂子	教養学部(前期課程) 社会・社会思想史	火2	118	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 質的調査の方法</p> <p>目標概要 社会調査は、量的調査と質的調査の二つに大別されるが、本授業では、質的調査(聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフストーリー分析、等)の方法、および質的データの分析手法について習得する。 社会調査士【F】科目。</p> <p>評価方法 授業中に与えられる諸課題、レポート等。</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

人文科学ゼミナール

※人文科学ゼミナールの各科目は、「方法基礎」単位未取得の学生を除いて、2014年度以前の入学者は履修することができないので、注意すること。

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
50768	A	人文科学ゼミナール (哲学・科学史)	岡本 拓司	教養学部(前期課程) 哲学・科学史	水5	115	1年 文科 2年 文科
<p>講義題目 ポツダム宣言受諾の過程に関する近年の研究を読み、戦前期日本の諸様相に関する理解を深める</p> <p>目標概要 戦争を終了させることができるのは交戦国のうち降伏を決意した側である。通常、優勢である国が降伏を決意することはないため、戦争を終結させるか否かを決めるのは敗北しつつある側である。何を敗北とみなし、何を戦争終結の理由とするかは、国や状況、時代によって異なるが、第二次世界大戦当時の日本では、こうした判断はどのようになされたのであろうか。このときの判断には、明治維新の際の建国の理念や、それ以降に日本が経験した出来事のほとんどすべてが影響を及ぼしていた。ポツダム宣言受諾の過程に関する近年の研究を読み、近代の日本が経験した唯一の敗戦がどのように成立したか、そこから読み取れるものは何かを考察する。適宜映画も利用し、またドイツの事例も参照する。</p> <p>評価方法 レポートを2回程度課す。これに演習中の発表の内容を加味する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50291	A	人文科学ゼミナール (歴史学)	岩本 通弥	教養学部(前期課程) 歴史学	火2	120	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 柳田民俗学の知と社会構想</p> <p>目標概要 日本政治思想史の川田稔によって執筆された『柳田国男一知と社会構想の全貌』ちくま新書、2016年を、輪読のテキストとして使用することによって、狭義の民俗学の枠を超えた、いわゆる柳田学の全体像を概観する。柳田の知の体系化と社会構想が、なぜ「民俗学」なのかを、考える。</p> <p>なお、履修希望者が20名を超えた場合は、小論文の試験を実施して選考するので、初回授業に必ず出席すること。受講許可は第2回目までに掲示によって告知する。</p> <p>評価方法 授業の参加度と期末レポート</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : 柳田国男一知と社会構想の全貌 著者(訳者) : 川田稔 出版社 : 筑摩書房 ISBN : 978-4480069283</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51281	A	人文科学ゼミナール (歴史学)	福田 正宏	文学部	火3	K303	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 考古学入門：考古資料を読み解く</p> <p>目標概要 考古学には、二つのおもしろさがあると思う。一つは、遺跡の発掘により知られていなかった歴史を掘り起こすこと、もう一つは、遺跡に遺されたモノの由来や特徴を徹底的に調べあげて、人間の営為を解き明かすことである。考古学者たちは、世界中の遺跡で、人類がどのように道具を使ったのか、何を食べたのか、あるいは何を求めたのかを、あらゆる方法を用いて考える。古今東西の文献を渉猟することもあれば、年代測定や動植物遺体の同定などに関連した理化学的データにあたることもある。だが、遺跡にのこされた生々しい「人間臭さ」を、文字化された情報や数値化されたモデルだけから読み取ることは難しい。だからこそ、考古学者はわざわざ現地へ赴き、歩き回り、土に触れ、遺物と対峙するのである。</p> <p>この授業では、開学以来の東京大学による考古学研究を紹介するとともに、実際に遺跡や遺物に触れることで、現代考古学の分析・思考過程の一端を伝えたい。実技をとまなうので、履修希望者が15名を超えた場合は、初回授業内で簡単なレポートを作成・提出してもらい、それをもとに選考を行う。受講許可は第2回授業までに掲示によって告知する。</p> <p>評価方法 参加状況(50%)、ミニレポート(1回:10%)、最終レポート(40%)の内容から評価する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50769	A	人文科学ゼミナール (歴史学)	岡田 泰平	教養学部(前期課程) 歴史学	水5	116	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 史学史を読む——近現代アジア史の視点から——</p> <p>目標概要 とりわけマルクス主義が、大きな物語としての力を失ってきただけから、「歴史」の書き方が模索されてきました。本授業では、歴史学とは何か、という古い問いを、近現代アジア史を中心に考えていきます。中国や朝鮮半島の歴史という分厚い業績があり自律した歴史分野ではなく、むしろ日本の歴史学では周辺の地域を主たる対象とします。20世紀の歴史学の流れを、近現代アジア史を対象として捉えていくことを目的とします。基本的には、日本の戦後歴史学を跡付けることとなりますが、とりわけ80年代以降については、日本語訳された日本外の研究者の研究も扱っていきます。</p> <p>以下のようなテーマを主に考えていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会史の基本的な概念である、階級、人種・エスニシティ、ジェンダーが日本における近現代アジア史研究にどのように現れ、どのように展開してきたか。 2. 90年代以降にいわゆる戦後補償運動が高揚した。その結果、近現代アジア史研究はどのように変わったのか。とりわけ、植民地の捉え方にどのような変化が生じたか。そしてまた、過去の植民地と現在の国民国家はどのように関係しているのか。 3. 「歴史家の機能は、過去を愛することでもなく、自分を過去から解放することでもなく、現在を理解する鍵として過去を征服し理解すること」(カー『歴史とは何か』33頁)だとすると、21世紀型グローバリズムの時代において、私たちにとっての課題とは、何であるのか。 <p>評価方法 ・受講者にもよりますが、たぶん2, 3回は課題文献についてのレジュメを切ってもらいます。 ・発言が重要ですので、なるべく出席してください。 ・期末課題は史学史を抑えつつ、自らの関心事に沿った課題で書いてもらいます。 ですので、出席点、レジュメ、期末課題で成績をつけます。</p> <p>教科書 授業中に指示をする。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行く。</p>							
50770	A	人文科学ゼミナール (文化人類学)	福島 真人	教養学部(前期課程) 文化人類学	水5	8-206	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 文化の衝突—諸文化の衝突、対立、ダイナミズム (学際的観点を中心に)</p> <p>目標概要 現代のグローバル化する社会において、多くの異なる価値体系や文化が共存することが求められている一方で、メディアなどでは連日そうした価値の対立を示す出来事が多く取り上げられている。それは民族紛争、宗教対立といった問題にとどまらず、たとえば福祉政策や科学技術をめぐる論争に至るまで、そうした対立、論争、そして紛争はあらゆるところに姿を現している。そしてその多くは、さまざまな形で、われわれのアイデンティティとよばれる、心理的性質にも関係している。しかし、たとえ現在対立をしている宗派や民族、あるいは思想、科学的論争も、過去において常にそうだったわけではないのは、歴史的な由来をたどってみると分かるはずである。他方、その対立が深刻化すると、いわゆる民主主義的討議といったものだけでは解決が難しくなるのは、宗教や民族紛争といったケースのみならず、より世俗的な論争にもいえることである。この背後には、こうした対立を生み出す、われわれの「価値」の構造というのが、単に表面上の理屈や理論に基づくだけでなく、われわれの身体自体に深く根ざすものであるという認識の必要性が存在する。</p> <p>このゼミでは、宗教から政治、科学技術にいたるこうした一連の価値の対立の構造と過程を、分野横断的に概観しながら、その中にある、共通のダイナミズムと解決の(不)可能性について、第三世界を中心に、その文化の多様性とダイナミズムを研究する文化人類学を中心に、随時歴史学や科学技術社会論(STS)の成果も取り入れつつ演習を行うものである。</p> <p>特にこの授業では、宗教、政治、科学といった異なる領域を横断的に支える価値/身体/所属する共同体といった構造が、いかにこうした対立を支え、そのダイナミズムが一見異なる領域の間に興味深い相似性を示すことを理解することをその最終的な目的とする。</p> <p>評価方法 授業期間中の発表 授業中のディスカッション レポート</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行く。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50292	A	人文科学ゼミナール (テキスト分析)	深澤 晴奈	教養学部(前期課程) スペイン語	火2	115	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 スペイン語テキスト分析</p> <p>目標概要 本コースは、初修スペイン語の文法知識を確認しながら中級レベルのニュース記事を読み取り・読解・解釈し、スペイン語の表現能力の向上を目標とするものである。テキストを用いて、スペイン語圏のニュースを題材に、文法、語彙、聞き取りの練習をおこなう。初級文法テキスト等を参考にしながらあらかじめ文法及び語彙の予習をしてきてもらい、授業では文章の訳を提示し各々の訳に対する解説をおこなうことによってスペイン語の知識のより確実な習得を目指す。加えて授業では音読やスペイン語作文にも取り組んでもらう。初級文法を終え、さらにより総合的なスペイン語能力の向上を目指している積極的な学生の参加を期待する。</p> <p>評価方法 積極的な授業への参加と質問・コメント及び提出課題への取り組みを通じて総合的に評価をおこなう。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : Es noticia(ニュースを聞こう！中級スペイン語) 著者(訳者) : Satoko Nakajima, Sachi Sato, David Taranco 出版社 : 三修社 ISBN : 978-384-42016-6 C1087</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50293	A	人文科学ゼミナール (テキスト分析)	品田 悦一	教養学部(前期課程) 国文・漢文学	火2	116	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 斎藤茂吉『赤光』を精読する</p> <p>目標概要 近代短歌史上の金字塔『赤光』を分担して精読し、茂吉という歌人の虚像を斥け、実像に迫る。</p> <p>評価方法 発表の出来映えと討論における発言を総合して成績評価を行なう。ただし、発表が不首尾だったなどの理由で補足レポートの提出を希望する場合は、これを妨げない。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : 『赤光』 著者(訳者) : 斎藤茂吉 出版社 : 新潮文庫 ISBN : 978-4101494210 「私選茂吉秀歌500首」を配付する</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50294	A	人文科学ゼミナール (テキスト分析)	小林 宜子	教養学部(前期課程) 英語	火2	117	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 中世イングランドの詩と文化</p> <p>目標概要 中世の手書き写本に残された作者不詳の宗教詩や恋愛詩、中世後期を代表する詩人ジェフリー・チョーサーのバラードなど、中世イングランドの様々な短詩を、その背景となる文学的伝統や作品が生まれ出された当時の歴史的状況などを考察しながら精読する。原詩は中世の英語で書かれたものだが、教材には詩の現代英語訳や語注が添えられているので、中英語の知識は履修の前提とはならない。詩の読解と並行して、その文化的・社会的背景を知る手がかりとなるような資料や画像を参照するとともに、原詩の朗読や関連する音楽のCDを聴きながら、音の芸術としての詩に備わる言葉の響きやリズムへの感性を養い、人間の内面や季節の移ろい、信仰や霊性、死生観など、多様なテーマを捉えた詩的表現の豊かさを味わっていく。</p> <p>評価方法 授業中の発言と発表、課題のレポート、および定期試験の成績に基づいて総合的に評価する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
50425	A	人文科学ゼミナール (テキスト分析)	田村 隆	教養学部(前期課程) 国文・漢文学	火3	KALS	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 山水会教科書で読む『源氏物語』葵巻</p> <p>目標概要 『源氏物語』葵巻を演習発表もしくは輪読形式で読み進める(受講者数による)。 旧制第一高等学校の国語・漢文系教員の懇話会は山水会と命名され、その名は新制東京大学教養学部を受け継がれて今日まで続いている。一高校長を務めた杉敏介『南山歌集』61頁に載る昭和6年5月起草の「一高山水会記」には、「予曰く水清くして山翠なり山水会と為す如何」とある。今学期は、山水会によって昭和28年に駒場で編まれた『源氏物語』の教科書(葵・賢木、矢鳥書房)をテキストに、当時の本文や注釈を基に今日の読まれ方とも比較しながら物語を味読することを目指したい。</p> <p>評価方法 演習発表時の資料と学期末のレポートによる。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
51067	A	人文科学ゼミナール (データ分析)	矢田部 修一	教養学部(前期課程) 英語	金2	E25	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 Prologによる言語構造解析</p> <p>目標概要 プログラミング言語Prologを用いて日本語・英語などの言語の構造を解析するシステムを作ってみる。言語の構造には、人文・社会科学の研究対象としては珍しく、かっちりした規則によって捉えられる側面がある。その側面の一端を分析し、理解することがこの授業の中心的な目標である。そして、論理型プログラミング言語Prologの仕組みを理解し、それなりに使いこなせるようになることが副次的な目標である。</p> <p>評価方法 学期中に何度か提出してもらった宿題の出来具合に基づいて成績評価を行う。より詳しいことは初回の授業で説明する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : Prolog and Natural-Language Analysis (Digital Edition) 著者(訳者) : Pereira and Shieber 出版社 : Microtome Publishing URL : http://www.mtome.com/Publications/PNLA/prolog-digital.pdf</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51068	A	人文科学ゼミナール (データ分析)	大森 拓哉	教養学部(前期課程) 心理・教育学	金2	K201	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 心理学統計法</p> <p>目標概要 物事を客観的に判断するための一つは、証拠となるデータを集め、分析することである。この授業では、人間行動や社会現象一般のデータを用い、的確な分析ができるようになるための基礎を学ぶ。その中でも特に「心理学で用いられる統計手法」および「統計に関する基礎的な知識」を学ぶ。講義は、EXCELを用いて、実際のデータの収集・分析・考察を講義と演習によって行う。演習は一人一台のPCを使用して行う。</p> <p>*履修希望者が40名を超えた場合は、授業初回時間内の小レポートにより選考するので、初回授業に必ず出席すること。受講許可は第2回目までに掲示によって告知する。</p> <p>評価方法 出席、授業中の課題、最終課題の合計点で評価する。 出席点20%、課題点80%</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
51164	A	人文科学ゼミナール (データ分析)	荒井 良雄	教養学部(前期課程) 人文地理学	金3	117	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 地域調査・地域分析の方法</p> <p>目標概要 地域を理解・解明するための調査法、分析法の入門的な講義・実習を行います。フィールド調査、地図の読解と作成、地域データの収集・分析、統計データの利用などの内容を含みます。授業の一部は実際にフィールドへ出かける野外実習にあてます。なお、履修希望者が20名を大きく越えた場合には、小論文の試験によって選考を行う場合がありますので、初回授業に必ず出席してください。選考を行った場合、受講許可は第2回目以前に掲示によって告知します。</p> <p>評価方法 実習の成果物(レポート)および最終レポート(各自がテーマを設定して作成)を総合的に評価します。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

自然科学ゼミナール

※自然科学ゼミナールの各科目は、2014年度以前の入学者は履修することができないので、注意すること。

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
50195	A	自然科学ゼミナール (身体運動科学)	石井 直方	教養学部(前期課程) スポーツ・身体運動	月4	K402	1年 文科 理科
<p>講義題目 アドバンスト・フィットネス</p> <p>目標概要 定期的にトレーニングやスポーツを行っている学生やトレーニングに興味を持つ学生を対象に、最新のトレーニング科学の知識を講義と実習を通じて提供する（定員25名）。 *履修者の決定方法等については、UTASシラバス「履修上の注意」を参照すること。</p> <p>評価方法 出席、レポート、受講態度などから総合的に評点する。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
51257	A	自然科学ゼミナール (生命科学)	和田 元	教養学部(前期課程) 生物	集中	シラバス 参照	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 身近な植物を通して、植物の生き方を考える</p> <p>目標概要 駒場キャンパスにどのような植物（草木や樹木）が生育しているのかを調べる。また、駒場キャンパスに生育している植物を実験材料として、器官、組織、細胞レベルでの形態を観察し、それらの形態は植物にとってどのような意味があり、生き方とどのような関係にあるのかについて考える。</p> <p>評価方法 レポート</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特定日に行う。 2018年10月1日12時20分から50分までの時間、21KOMCEE East 生命科学実験室</p>							
51258	A	自然科学ゼミナール (生命科学)	山道 真人	教養学部(前期課程) 生物	集中	シラバス 参照	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 野外生物学：生態と進化の数理モデル実習</p> <p>目標概要 基礎知識を学ぶ講義と、数理モデルの構築・解析・シミュレーションを組み合わせ、野外の生物群集と進化の動態に対する理解を深める。 休日を利用して実施する集中講義では、数理モデルを用いた個体群生態学・群集生態学・進化生態学・集団遺伝学の基礎を紹介し、実習にその知識を役立てることを期待する。休日を利用して実施する数理モデル実習では、野外の生物現象に基づいて数理モデルを構築し、シミュレーションを含めた解析を行う。休日を利用して実施するこれら講義・実習に参加できない場合は、履修できないので注意すること。 数理モデル実習のため、受講者数を15名程度に制限する。受講希望者が受講可能数を超える場合は、レポート課題により受講者を選抜する。その他、詳しい内容はガイダンスにおいて説明・指示する。ガイダンスは、10月2日（火曜）昼休みに、106教室で行なわれる。</p> <p>評価方法 グループ発表・参加姿勢</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名：数理生物学入門—生物社会のダイナミクスを探る 著者（訳者）：巖佐庸 出版社：共立出版 ISBN：978-4320054851</p> <p>ガイダンス 特定日に行う。 2018年10月2日 昼休みの時間帯、106教室</p>							

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
51291	A	自然科学ゼミナール (生命科学)	和田 洋一郎	アイソトープ 総合センター	金1	117	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 放射線影響と利用</p> <p>目標概要 アイソトープ総合センターにおいては、生命科学から数理科学まで広範な領域にわたって専任教員による研究が行われている。同時に、全学センターとして学内の放射線利用者への教育や、放射線を使った先端的研究支援を行い、学外に向けては原子力発電所事故の被災自治体や地元教育研究機関と協力して、除染・測定を含む学術的活動を継続的に行い、帰還を支援している。当センターはこれらの活動を通じて、被災地住民にとって真に重要な課題を明らかにし、これに取り組むために従来の学問の限界や枠組みを押し広げる努力を行っている。放射線影響、特に低線量の内部被ばくメカニズム解明やそれに対する防護については未知の点が多く、集学的な対応が必要であることから、その全貌を把握する系統的な機会は少ない。そこで、本講義においては可及的に多様な視点から放射線が生体に及ぼす現象を平易に解説することを目的とする。また、当センターは生体イメージングや、α線核種を用いた医薬品開発など、先端的なアイソトープ利用の拠点としての役割も果たしているため、最新の学問的潮流を踏まえて、放射線の有効利用の現状と次の展開についても解説する。特に、アイソトープ総合センターの教職員が取り組む研究とその成果をとりあげるにより、現実的な課題から最先端の科学研究に至るまで概観することを本講義の目的とする。</p> <p>「放射線影響と利用」では、(受講希望者が多数の場合には、)、受講を希望する理由書に基づき選抜を実施する。履修希望者は本講義の受講を希望する理由をA4用紙1枚程度に記載し、第1回講義の際に提出すること。選抜結果は、第2回講義前までに掲示する。</p> <p>評価方法 それぞれの講義のうち幾つかを選択した上でレポート提出を求め、最終回に予定している測定演習の成績と総合して理解度を判定、評価する。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
50295	A	自然科学ゼミナール (化学)	平岡 秀一	教養学部(前期課程) 化学	火2	KALS	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 有機反応機構を考える</p> <p>目標概要 本ゼミナールはSセメスターに開講された「有機反応化学」を発展させ、実際に報告されている様々な有機化学反応を題材に、その反応機構を考える授業である。「有機反応化学」では、有機化合物の立体構造や安定性、基本的な有機反応とその反応機構を電子論的に考えられることを学んだが、本講義ではなぜそのような反応が起こるのか、もしくはある生成物がなぜ優先的に生成するのかを、軌道の相互作用、中間体もしくは遷移状態の安定性をもとに定性的に議論し、合理的な解釈へ至る方法を学ぶ。本授業はSセメスターに開講された「有機反応化学」で学んだ内容が必要になることがあるが、「有機反応化学」を履修していない学生でも、意欲があれば大いに歓迎する。過去に開講されたクラスでも「有機反応化学」未履修者が履修していたが、問題なく最後まで参加していた。なお、「有機反応機構を考える」では、受講希望者が多数の場合には、選抜を実施する。履修希望者は第1回目の講義に必ず出席すること。選抜結果は、第2回講義前までに掲示する。参考として、過去のクラスにおいて、受講者の選抜が行われたことはない。</p> <p>評価方法 出席および各回の講義における発表、質疑応答により評価する。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
51285	A 1	自然科学ゼミナール (化学)	石北 央	工学部	水5	118	1年 理科 2年 理科
<p>講義題目 エネルギー変換の化学～理論からデバイスまで～</p> <p>目標概要 植物による光合成から太陽電池や燃料電池、光触媒に至るまでのエネルギー変換に関連した最先端でホットな化学についてみなさんと一緒に考えていきます。若手教員2名が、基礎的な事項からわかりやすく様々なアプローチで講義します。化学といっても、実際には物理、生物・バイオ、材料、環境等多岐分野に渡ります。そのような「これからの化学」を垣間見ることができます。</p> <p>【担当教員】 石北 央 (先端科学技術研究センター・工学部応用化学科) 高鍋和広 (工学部化学システム工学科)</p> <p>評価方法 出席、レポート</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
51289	A	自然科学ゼミナール (数理科学)	小木曾 啓示	数理科学研究科	火2	516	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 代数幾何学入門</p> <p>目標概要 代数幾何学の初歩を具体例とともに学ぶ。</p> <p>評価方法 レポートと出席、発表による。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。 書名 : Undergraduate Algebraic Geometry 著者(訳者) : Miles Reid 出版社 : London Mathematical Society</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51290	A	自然科学ゼミナール (数理科学)	加藤 晃史	数理科学研究科	月5	118	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 群と対称性</p> <p>目標概要 本ゼミナールでは、自然界に存在する様々な形態の対称性や周期性を数学的に記述する群の概念の基礎を学ぶ。また、将来、物質科学などでも必要になる結晶群や、群の行列表現と指標などにもふれる。具体例を通して、受講者が主体的に課題に取り組めるようにする。</p> <p>「群と対称性」では、(受講希望者が多数の場合には)、受講を希望する理由書に基づき選抜を実施する。履修希望者は本講義の受講を希望する理由をA4用紙1枚程度に記載し、第1回講義の際に提出すること。選抜結果は、第2回講義前までに掲示する。</p> <p>評価方法 出席・発表・質疑応答・レポート等により、内容の理解度およびゼミへの貢献度を総合的に評価する。</p> <p>教科書 次の教科書を使用する。 書名 : Algebra in Action: A Course in Groups, Rings, and Fields 著者(訳者) : Shahriar Shahriari 出版社 : American Mathematical Society ISBN : 978-1470428495 必要な部分についてはプリントを配布する予定</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51280	A	自然科学ゼミナール (情報科学)	伊東 乾	情報学環	火4	学際交流 ホール	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 新しい学際情報学・・・ブロックチェーン、自動運転、セキュリティ</p> <p>目標概要 2010年代に入って急速に発展しつつある幾つかの「新しい情報分野」について、数理的な基礎、応用上のポイント、法的、経済的な面からの解決すべき問題、倫理的な課題など、文理横断的な観点から<2020年代以降の必須学際情報学>を念頭にカリキュラムを準備する。進んだ学生には自らの創意に基づいてソースコードに習熟するアドヴァンスト・コース班を分けて対処する考えだが、必修科目と同様の観点から初学者の理解を大切に考える。</p> <p>評価方法 メールで提出されるレポート</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							

時間割コード	開講	授 業 科 目 名	担 当 教 員	所 属	曜 限	教 室	対 象
51286	A	自然科学ゼミナール (基礎工学)	杉山 正和	工学部	木5	K402	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 半導体エネルギーデバイス：半導体の基礎物理から考えるLED, 太陽電池, パワートランジスタ</p> <p>目標概要 太陽電池、発光ダイオード、電車や電気自動車の電力制御、そしてスマートフォンなどの省電力デバイスにおいて高効率のエネルギー変換や情報処理を行っているのは半導体デバイスである。本科目では、半導体によりこのような機能を発現できるメカニズムを固体物理や熱力学の観点から学ぶ。</p> <p>評価方法 講義終了後に提出するレポートによる。</p> <p>教科書 プリントを配布する。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							
51287	A 1	自然科学ゼミナール (基礎工学)	松田 雄二	工学部	水5	K301	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 未来の社会空間学概論</p> <p>目標概要 2050年には世界人口の3人に2人が都市居住者になることが予想されており、日本のみならず多くの中進国でも人口減少と高齢化社会が進行する。また温暖化によって、今以上に自然災害や資源問題が深刻化し、人々が暮らすために必要な空間や機能にリスクが上乗せされていくことになる。このような未来を考えた場合、わが国のみならず、グローバルな視点においても、社会基盤学、都市工学、建築学が果たすべき役割は大きい。</p> <p>本講義は、こうした近い未来に迫るであろう重要な課題を解決するべく、空間をデザイン・利用・制度設計するうえで必要となる重要な理論を体系的に学び、あわせて中長期的な課題解決をはかるうえでの求められる実践方法、検証方法などについても、考察を深めることを目的とする。</p> <p>評価方法 出席点とレポートの総合点で評価する。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							

時間割コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	教室	対象
51288	A	自然科学ゼミナール (基礎工学)	山下 淳	工学部	集中	シラバス 参照	1年 文科 理科
<p>講義題目 知能ロボット入門 (集中講義：10月13日(土) 9:30～17:00・10月14日(日) 9:30～17:00)</p> <p>目標概要 宇宙開発で用いられるローバ(惑星探査車)に代表されるように、自律的に行動する知能ロボットは人間が直接アクセスできない場所などで活躍しています。 本講義では、センサ情報を用いて外界を認識し、知的に動作する知能ロボットの創り方について、実際のロボットを操作しながら学びます。授業の後半では、グループに分かれて製作した知能ロボットを用いてロボットコンテストを行い、創り上げたロボットの性能(=知能)を競いあいます。授業の最後には、製作した知能ロボットの工夫点などをまとめたプレゼンテーション実習を行うことによって、授業のふりかえりをを行います。 ロボット工学は、精密工学、航空宇宙工学、人工知能、情報科学、機構学、運動学、制御工学、計測工学などの幅広い内容を含む総合的な学問です。本授業は、ロボットの基礎知識の学習、知能ロボットの製作、ロボットコンテスト、プレゼンテーションなどを含んだ欲張りな内容です。多くのことを学習したい意欲的な受講生を歓迎します。</p> <p>本講義では、受講希望者が多数の場合には、受講を希望する理由書に基づき選抜を実施します。履修希望者は、受講希望理由書に必要事項を記載し、9月29日(土)までに電子メールで提出して下さい。選抜結果は、10月2日(火)までに電子メールでお知らせする予定です。</p> <p>受講希望理由書</p> <ul style="list-style-type: none"> 提出締切：2018年9月29日(土) 提出宛先：(UTASシラバス【授業の目標・概要】参照)(精密工学科 山下 淳) メールの件名は「知能ロボット入門受講希望」として下さい。 Word版：http://www.robot.t.u-tokyo.ac.jp/~yamashita/lecture/2018/introduction-robotics/application.docx PDF版：http://www.robot.t.u-tokyo.ac.jp/~yamashita/lecture/2018/introduction-robotics/application.pdf Text版：http://www.robot.t.u-tokyo.ac.jp/~yamashita/lecture/2018/introduction-robotics/application.txt <p>受講希望理由書は、http://www.robot.t.u-tokyo.ac.jp/~yamashita/lecture-j.html#2018introduction-robotics からダウンロードできます。</p> <p>受講希望理由書の必要事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 氏名(例：駒場 花子, こまば はなこ) 学年(例：1年生) 科類(例：理科I類) 学籍番号(例：123456A) 領域(推薦入学の場合)(例：領域3) メールアドレス(例：123456@abc.ac.jp) 受講希望理由(自由に記述して下さい) <p>評価方法 出席、講義の積極性、レポートなどから総合的に判断します。</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 特に行わない。</p>							
51284	A	自然科学ゼミナール (物理学)	鈴木 庸平	理学部	木4	114	1年 文科 理科 2年 文科 理科
<p>講義題目 地球惑星環境研究の最前線</p> <p>目標概要 我が国の学術水準は、科学の3大フロンティアである宇宙・地底・深海の極限環境から試料を直接採取し、地球や惑星の形成および生命の起源や進化を研究することが可能である。一方で、人類活動による地球温暖化や環境汚染、資源・エネルギーの持続的な利用、自然災害への対処等の問題についても、研究による解決策が求められている。本科目は、地球惑星環境について研究を行っている教員陣により、研究の最前線についてわかりやすく講義する。</p> <p>評価方法 出席とレポート</p> <p>教科書 教科書は使用しない。</p> <p>ガイダンス 第一回授業日に行う。</p>							